

II 五類定点把握感染症 (性感染症を除く)

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

1. 2024 年の総括

2024（令和 6）年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表）。新型コロナウイルス感染症は、2023 年 5 月 8 日（第 19 週）以降、5 類定点把握感染症となり、2024 年は一年を通じて、定点あたり報告数の情報が収集できているため、本項で記載する。2024 年は、小児科定点疾患、眼科定点疾患、基幹定点疾患の総計数は 131,538 となり、2023 年 111,926 よりも、17.5%の増加であった。この理由は、

（1）2024 年、咽頭結膜熱（前年比較：11,692 例減）やヘルパンギーナ（前年比較：7,096 例減）は、大幅に減少したが、その代わりに、手足口病（前年比較：30,279 例増）が大幅に、増加したため、（2）A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前年比較：4,959 例増）が増加、（3）マイコプラズマ肺炎が大幅に増加（前年比較：1,600 例増）したため、と考えられる。

表 定点あたり年平均の週間報告

全 国			大 阪 府		
順位	感染症	定点あたり報告数	順位	感染症	定点あたり報告数
1	インフルエンザ	7.45	1	インフルエンザ	7.02
2	新型コロナウイルス感染症	6.22	2	感染性胃腸炎	4.41
3	手足口病	4.07	3	新型コロナウイルス感染症	4.31
4	感染性胃腸炎	4.03	4	手足口病	3.29
5	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.04	5	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.56
6	マイコプラズマ肺炎	0.90	6	マイコプラズマ肺炎	1.74
7	RSウイルス感染症	0.75	7	RSウイルス感染症	1.06
8	咽頭結膜熱	0.61	8	咽頭結膜熱	0.43

全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、手足口病、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、マイコプラズマ肺炎、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱の順であった。大阪府では、インフルエンザ、感染性胃腸炎、新型コロナウイルス感染症、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、マイコプラズマ肺炎、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱の順であった。全国の発生動向と比較すると、新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎、手足口病の順番が異なっていた。

大阪府の発生動向について、2023 年と比較すると、インフルエンザの年平均の週間報告数が 8.18 から 7.02 へ、昨年より減少していたものの、コロナ禍前の数値（2019 年 5.63）と比べ

ると、2023 年に引き続いて、高い数値となっている。感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が 4.45 から 4.41 へ、昨年と比べ、ほぼ横ばいであった。新型コロナウイルス感染症の年平均の週間報告数が 4.31 であり、大阪府では、3 番目であった。手足口病の年平均の週間報告数が 0.33 から 3.29 へ、昨年より、897%と著しい増加が見られた。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年平均の週間報告数が 2.09 から 2.56 へ、昨年より、22.5%と増加していた。

マイコプラズマ肺炎の年平均の週間報告数が 0.03 から 1.74 へ、昨年より、58 倍と著しい増加が見られた RS ウイルス感染症の年平均の週間報告数が 1.04 から 1.06 へ、昨年と比べ、ほぼ横ばいであった。咽頭結膜熱の年平均の週間報告数が 1.58 から 0.43 へ、昨年より、72.8%と減少していた。

(文責：本村)

1) 感染症別・週別患者報告状況

「2024 年（令和 6）年の総括」で記した疾患について、定点当たり報告数の最高値が報告された週や最高値を示す（表 1）。

インフルエンザについて、2023/2024 流行シーズン時においては、第 6 週（2 月第 1 週 定点あたり報告数：29.79）となり、その後、下降し、第 17 週（4 月第 4 週 定点あたり報告数：0.74）に、非流行期となった。その後、第 40 週（9 月第 5 週 定点あたり報告数：0.84）、第 41 週（10 月第 1 週 定点あたり報告数：0.96）と増加し、流行期入りの目安 1 に近づいたが、その後、減少し、第 46 週（11 月第 2 週 定点あたり報告数：1.97）に、1 を超え、流行期入りした。第 47 週より約 2 倍で増加、第 51 週（12 月第 3 週 定点あたり報告数：45.86）で警報レベルの目安 30 を超え、第 52 週（12 月第 4 週 定点あたり報告数：67.86）となり、現行の集計法になって、最高の定点あたり報告数となった。

感染性胃腸炎は、昨年は例年と異なり、初夏に最高値となったが、2024 年は、例年通り、第 5 週（1 月第 5 週 定点あたり報告数：8.31）と、冬季に最高値を示した。

新型コロナウイルス感染症は、第 30 週（7 月第 4 週 定点あたり報告数：14.68）に、最高値に達した。2020 年以降、新型コロナウイルス感染症は、換気が不十分で、冷暖房を使用して密閉環境ができる夏、冬に報告数が増加する傾向にある。冬期では、第 5 週（1 月第 5 週 定点あたり報告数：9.36）であった。新型コロナウイルス感染症の動向は、上記の環境要因以外に、新変異株の出現、免疫の減衰などの要因も報告数の動向に影響を及ぼす。今後も、国内外における変異株の動向については、情報の収集が重要である。

手足口病は、第 28 週（7 月第 2 週 定点あたり報告数：9.93）に、最高値に達した。手足口病の動向は、2024 年の年初より、定点あたり報告数が例年よりも高く、コロナ禍以降、本格的な報告数の増加が予想されていた。第 22 週（5 月第 4 週 定点あたり報告数：6.13）に、警報レベルの目安 5 を超え、第 28 週に 9.93 となった。その後、減少傾向を呈していたが、第 33 週（8 月第 2 週 定点あたり報告数：1.78）を起点に、再度、増加に転じ、第 40 週（9 月第 5 週 定点あたり報告数：5.51）に、再び、警報レベルの目安 5 を超え、第 41 週に 6.45 となった。

このように、2024 年は、二峰性のピークを形成していた。この原因は、不明であるが、第 28 週のピークのときは、コクサッキーウイルス A6 型が主要な流行株であり、第 41 週のピークのときは、コクサッキーウイルス A16 型で、流行株のウイルス型が異なっていたことが関係していると推測された。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、コロナ禍前は、6 月と 12 月に報告数がピークとなるような二峰性の流行パターンを示していたが、新型コロナウイルス感染症が流行した 2020 年以降、低水準で推移していた。2023 年の下半期より増加傾向となり、2023 年の 12 月第 2 週に最高値 5.53 に達した。2024 年の上半期も報告数が多い状況が続いており、第 20 週（5 月第 2 週 定点あたり報告数：4.59）と、最高値に達していたが、その後、徐々に減少し、第 31 週（7 月第 5 週 定点あたり報告数：1.80）より、定点あたり報告数は 1 台となった。2024 年は、コロナ禍前のように、12 月に報告数がピークとなることはなかった。

2023 年と 2024 年における感染症発生動向の増減を比較すると、小児科・眼科定点疾患の総計は 131,538 であり、前年比 17.5%増であった。2023 年に報告数が増加した咽頭結膜熱、ヘルパンギーナは、大きく減少していた。それ以外に、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎も減少していた。咽頭結膜熱で前年比 72.5%減、ヘルパンギーナは前年比 65.2%減、流行性耳下腺炎は前年比 16.0%減、流行性角結膜炎で 8.7%減であった（表 2）。増加していた疾患は、前年比が高い順に、手足口病が前年比 903%増加、伝染性紅斑が前年比 315.8%の増加、急性出血性結膜炎が 69.2%の増加、水痘が 67.8%の増加であった。

インフルエンザは、前年比 13.1%の減少であった。2023 年は、非流行期も、定点あたり報告数 0.48~0.92 で推移し、8 月の第 3 週に流行期入りしたことが、大きな増加の原因になったが、2024 年は、定点あたり報告数のピークは、現行の集計方法になってから、最高値であったが、コロナ禍前と同じような発生動向パターンであったことから、やや減少となった。

基幹定点疾患であるマイコプラズマ肺炎は、大きな報告数の増加が見られ、前年比 53.3 倍であった。累計報告数 1,630 は、現行の集計方法になってから、最大の報告数となった。感染性胃腸炎（ロタウイルス）は、報告数は少ないものの、前年比は 3.9 倍になっている。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎も、前年に比べ、増加していた。行動制限緩和が進み、感染症に関する報告数はコロナ禍前の水準に戻りつつある。

（文責：本村）

表1. 定点あたり報告数の最高値が報告された週および最高値（2024年）

大 阪 府				
	疾患	定点あたり報告数の 最高値が報告された週	定点あたり 報告数の 最高値	警報レベル 開始基準値
1	インフルエンザ	52週（12月第4週）	67.86	30
2	感染性胃腸炎	5週（1月第5週）	8.31	20
3	新型コロナウイルス感染症	30週（7月第4週）	14.68	
4	手足口病	28週（7月第2週）	9.93	5
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20週（5月第2週）	4.59	8

全 国				
	疾患	定点あたり報告数の 最高値が報告された週	定点あたり 報告数の 最高値	警報レベル 開始基準値
1	インフルエンザ	52週（12月第4週）	64.43	30
2	新型コロナウイルス感染症	5週（1月第5週）	16.15	
3	手足口病	28週（7月第2週）	13.36	5
4	感染性胃腸炎	3週（1月第3週）	7.63	20
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21週（5月第3週）	5.04	8

表2. 2024年と2023年における感染症発生動向比較

インフルエンザ定点疾患	2024 年	2023 年
インフルエンザ ↓	111,620	128,407

小児科定点疾患	2024 年	2023 年
RS ウイルス感染症 ↑	10,872	10,452
咽頭結膜熱 ↓	4,428	16,120
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ↑	26,204	21,245
感染性胃腸炎 ↑	45,102	44,973
水痘 ↑	1,707	1,017
手足口病 ↑	33,632	3,353
伝染性紅斑 ↑	395	95
突発性発しん ↑	2,243	2,175
ヘルパンギーナ ↓	3,787	10,883
流行性耳下腺炎 ↓	429	511
合計	128,799	110,824

眼科定点疾患	2024 年	2023 年
急性出血性結膜炎 ↑	44	26
流行性角結膜炎 ↓	916	1,003
合計	960	1,029

基幹定点疾患	2024 年	2023 年
細菌性髄膜炎 ↑	42	9
無菌性髄膜炎 ↑	43	24
マイコプラズマ肺炎 ↑	1,630	30
クラミジア肺炎（オウム病を除く） ↑	15	0
感染性胃腸炎（ロタウイルス） ↑	49	10
合計	1,779	73

2) 感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を11ブロック（1. 豊能、2. 三島、3. 北河内、4. 中河内、5. 南河内、6. 堺市、7. 泉州、8. 大阪市北部、9. 大阪市西部、10. 大阪市東部、11. 大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、1年間でより流行が認められた地域を定点あたりの年平均報告数を表に要約した。年平均の定点あたり報告数から地域ブロックを評価した場合、南河内は2疾患（インフルエンザ、感染性胃腸炎）、大阪市北部（手足口病、RSウイルス感染症）、堺市（新型コロナウイルス感染症）、大阪市南部（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）、大阪市北東部（マイコプラズマ肺炎）、中河内（咽頭結膜熱）が、首位を占めていた（表3）。

一方、三島は3疾患（インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症）、大阪市東部は2疾患（感染性胃腸炎、手足口病）、中河内（新型コロナウイルス感染症）、大阪市西部（咽頭結膜熱）、大阪市北部と大阪市南部（マイコプラズマ肺炎）で、最下位であった。

（文責：本村）

表3. 感染症別・ブロック別定点あたり報告数

インフルエンザ		感染性胃腸炎		新型コロナウイルス感染症		手足口病	
豊能	5.38	豊能	4.20	豊能	4.03	豊能	2.63
三島	4.96	三島	4.98	三島	3.22	三島	2.69
北河内	7.60	北河内	4.93	北河内	4.83	北河内	4.48
中河内	6.77	中河内	5.09	中河内	3.10	中河内	4.41
南河内	10.00	南河内	6.32	南河内	5.11	南河内	3.39
堺市	7.94	堺市	4.28	堺市	5.42	堺市	2.85
泉州	7.42	泉州	4.48	泉州	4.47	泉州	2.91
大阪市北部	8.05	大阪市北部	3.63	大阪市北部	4.62	大阪市北部	4.50
大阪市西部	9.62	大阪市西部	3.44	大阪市西部	3.83	大阪市西部	2.62
大阪市東部	5.00	大阪市東部	1.56	大阪市東部	4.11	大阪市東部	1.93
大阪市南部	5.96	大阪市南部	4.56	大阪市南部	4.07	大阪市南部	3.23
合計	7.02	合計	4.41	合計	4.31	合計	3.29

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		マイコプラズマ肺炎		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱	
豊能	1.68	豊能	1.32	豊能	0.55	豊能	0.23
三島	1.42	三島	1.71	三島	0.48	三島	0.23
北河内	3.46	北河内	1.32	北河内	1.33	北河内	0.44
中河内	2.27	中河内	1.05	中河内	1.24	中河内	0.73
南河内	2.98	南河内	1.88	南河内	1.34	南河内	0.69
堺市	3.44	堺市	3.38	堺市	1.01	堺市	0.35
泉州	2.56	泉州	1.87	泉州	1.02	泉州	0.54
大阪市北部	1.87	大阪市北部	0.00	大阪市北部	2.22	大阪市北部	0.50
大阪市西部	2.00	大阪市西部	2.46	大阪市西部	1.08	大阪市西部	0.20
大阪市東部	2.13	大阪市東部	3.98	大阪市東部	0.88	大阪市東部	0.39
大阪市南部	3.71	大阪市南部	0.00	大阪市南部	0.78	大阪市南部	0.40
合計	2.56	合計	1.74	合計	1.06	合計	0.43

（黄色は最高ブロックと定点あたり報告数、網掛けは最低ブロックと定点あたり報告数）

3) 感染症別・年齢別患者報告状況

小児科定点疾患、眼科定点疾患、基幹定点疾患において、年齢報告数で最も多かった年齢は 1 歳台、次いで 10-14 歳台、20 歳以上と続く。1 歳台の報告数の多い疾患は、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、であった。10-14 歳台の報告数の多い疾患は、インフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘であった。20 歳以上の報告数の多い疾患は、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎であった。

2023 年に引き続き、2024 年のインフルエンザの年齢別患者報告状況は、10-14 歳台の報告数が多かった。

(文責：本村)

表 4. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	10-14 歳台
R S ウイルス感染症	1 歳台
咽頭結膜熱	1 歳台
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10-14 歳台
感染性胃腸炎	1 歳台
水痘	10-14 歳台
手足口病	1 歳台
伝染性紅斑	4 歳台
突発性発しん	1 歳台
ヘルパンギーナ	1 歳台
流行性耳下腺炎	5 歳台
急性出血性結膜炎	20 歳以上
流行性角結膜炎	20 歳以上

2024 年 感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	62,229	64,106	87,425	94,820	111,574	118,254	101,915	82,850	68,989	79,676	85,196	69,519	55,196
新型コロナウイルス感染症	34,204	44,189	60,280	73,657	79,676	67,826	49,841	39139	34458	32259	30351	25,751	25,200
RSウイルス感染症	131	198	235	358	380	438	466	661	900	1,171	1,493	1,812	2,494
咽頭結膜熱	4,524	4,526	4,001	3,881	3,602	3,347	2,857	2,643	2,994	2,748	2,593	2,199	1,971
A 群溶血性レンガ球菌咽頭炎	5,404	8,867	13,389	13,621	14,491	14,500	11,539	11,591	12,225	13,810	14,057	11,525	11,176
感染性胃腸炎	8,782	16,795	23,875	23,806	23,290	21,606	17,961	17,114	17,197	17,593	16,698	13,442	12,892
水痘	452	450	480	406	434	427	365	399	404	428	434	410	407
手足口病	442	411	547	626	684	590	532	593	684	550	652	522	609
伝染性紅斑	29	59	54	63	61	61	54	55	60	68	63	53	87
突発性発しん	358	643	655	638	631	578	592	591	665	634	703	657	706
ヘルパンギーナ	66	75	93	92	84	64	53	93	103	81	63	70	77
流行性耳下腺炎	43	83	100	96	91	72	90	88	85	79	79	79	81
急性出血性結膜炎	10	11	5	6	5	7	5	4	9	12	6	8	8
流行性角結膜炎	495	619	446	409	368	351	326	295	313	297	264	290	356
細菌性髄膜炎	8	5	9	8	6	8	5	6	5	9	13	11	10
無菌性髄膜炎	7	10	12	13	6	12	4	8	6	11	16	13	6
マイコプラズマ肺炎	25	35	37	33	37	42	37	26	38	56	50	41	44
クラミジア肺炎（おた病を除く）		1	1			1	2		1	2	1	3	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	1	5	12	6	9	7	2	4	6	7	12	6

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	1,392	1,645	1,829	1,905	1,940	1,815	1,280	1,435	1,878	2,227	2,550	2,732	3,148
新型コロナウイルス感染症	39,915	55,603	67,438	72,113	65,819	51,926	39,367	43,353	36,948	32,479	26,107	21,507	17,665
RSウイルス感染症	5,050	5,806	5,276	5,502	5,501	4,533	2,124	1,749	2,041	2,175	1,879	1,431	1,155
咽頭結膜熱	2,114	1,878	1,576	1,506	1,346	1,339	713	913	825	915	923	795	717
A 群溶血性レンガ球菌咽頭炎	10,730	9,437	7,491	7,107	6,396	5,885	2,963	4,916	5,506	5,920	6,515	5,582	5,146
感染性胃腸炎	12,415	11,661	9,089	8,945	8,784	8,426	4,187	7,575	8,250	9,010	9,023	7,759	7,409
水痘	716	635	492	564	491	456	342	396	377	434	405	437	396
手足口病	36,030	42,018	36,871	37,470	30,090	24,866	11,356	13,251	17,905	22,529	25,272	24,363	25,504
伝染性紅斑	321	289	388	335	355	396	211	407	504	556	657	518	577
突発性発しん	951	914	809	813	837	830	494	882	924	978	866	792	770
ヘルパンギーナ	6,761	7,616	6,137	6,615	5,335	4,109	1,635	2,178	2,567	2,544	2,258	1,571	1,222
流行性耳下腺炎	214	186	134	156	95	126	75	104	112	136	136	130	133
急性出血性結膜炎	21	24	16	19	11	7	2	13	13	12	8	8	5
流行性角結膜炎	438	384	325	352	368	311	226	380	329	313	317	287	287
細菌性髄膜炎	11	10	10	10	12	12	14	8	16	7	13	6	9
無菌性髄膜炎	12	16	16	15	18	25	12	15	16	32	25	26	24
マイコプラズマ肺炎	241	331	346	379	471	570	637	581	581	593	692	724	809
クラミジア肺炎（おた病を除く）		1	2	3		1		1	2	2			2
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	5	5	2	3	8	3	5	3	2	6	3	2

報告数が0の場合には空白としている

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
25,126	13,238	9,108	5,253	2,201	1,693	1,395	1,176	947	860	750	805	962
21,023	18,321	17,974	15,847	11,126	13,678	16,247	16,568	17,418	19,745	20,590	22,778	28,649
3,156	4,453	5,503	5,403	3,909	3,838	4,348	4,757	4,105	4,310	3,832	3,973	4,273
1,770	1,764	2,109	2,193	1,566	2,137	2,231	2,603	2,629	2,798	2,896	2,704	2,338
9,572	10,404	12,807	14,541	8,342	11,134	15,435	15,820	15,224	15,332	14,024	12,686	12,021
11,394	12,101	13,142	14,397	8,062	11,425	14,982	15,526	15,056	15,278	14,775	13,318	12,854
389	449	451	549	333	722	506	684	684	671	774	686	656
657	1,014	1,405	1,797	1,891	2,826	4,677	6,682	9,088	12,056	14,879	19,803	26,633
57	83	153	93	77	108	136	180	190	259	269	267	312
714	784	933	983	673	979	991	1,014	1,078	1,062	1,005	1,056	1,047
97	141	192	285	239	355	714	885	1,376	2,034	2,489	3,359	4,954
110	86	159	152	117	152	193	211	206	215	222	230	228
7	12	13	14	8	13	9	34	23	25	38	34	24
369	366	383	441	297	518	501	469	505	571	489	456	468
11	16	10	8	8	10	8	6	15	12	6	11	18
11	10	8	10	8	9	19	8	13	19	17	20	20
41	55	66	79	67	89	84	138	113	123	158	193	201
	1	1	1	1	2	3	1	1	2	2	2	
5	8	10	9	6	6	8	11	16	16	24	10	11

40週	10月				11月				12月				合計
	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
3,837	4,413	3,596	4,289	5,128	5,266	9,315	11,699	24,053	44,739	94,332	211,531	318,166	1,911,403
15,245	11,776	9,173	8,381	7,758	7,261	9,414	8,973	11,956	15,159	19,255	27,199	34,679	1,593,264
1,030	997	800	744	822	740	806	734	860	961	1,043	1,166	1,272	122,794
747	701	589	678	787	677	844	887	1,070	1,250	1,275	1,391	1,358	99,438
6,040	6,280	5,334	6,098	5,977	5,301	7,179	6,404	8,105	8,193	8,195	8,222	7,469	495,928
8,421	8,273	7,223	8,361	8,723	7,711	9,993	9,678	12,088	13,680	15,364	16,340	15,662	657,411
412	458	455	623	507	602	650	724	896	961	960	1,051	840	28,330
27,099	33,801	29,425	25,322	24,147	18,044	13,105	10,572	8,626	6,126	4,156	2,798	1,698	663,294
857	797	1,045	1,010	1,164	1,111	1,745	1,613	2,806	2,900	2,952	3,080	2,644	32,189
853	788	765	832	796	721	707	758	871	806	743	712	678	41,260
1,218	1,190	817	775	594	383	299	240	194	151	103	75	62	74,783
107	95	115	89	125	86	96	83	100	116	114	110	95	6,415
12	5	6	10	5	6	11	15	16	17	33	43	32	720
295	348	263	344	340	312	345	367	438	498	563	587	623	20,302
17	11	6	15	8	10	10	10	12	10	11	12	11	523
23	29	21	19	22	21	19	14	16	19	13	8	14	786
956	962	988	1,200	1,203	1,162	1,376	1,235	1,097	1,104	873	729	651	22,399
2	1	5	3	5	1	2		4		2	4		72
1	4		1	2	6	2	6	4	4	10	8	14	335

2024 年 感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	12.70	13.00	17.73	19.22	22.62	23.99	20.65	16.78	13.97	16.14	17.27	14.08	11.18
新型コロナウイルス感染症	6.98	8.96	12.22	14.93	16.15	13.76	10.10	7.93	6.98	6.54	6.15	5.21	5.11
RSウイルス感染症	0.04	0.06	0.08	0.11	0.12	0.14	0.15	0.21	0.29	0.37	0.48	0.58	0.80
咽頭結膜熱	1.46	1.44	1.28	1.24	1.15	1.07	0.91	0.84	0.95	0.88	0.83	0.70	0.63
A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	1.74	2.83	4.28	4.35	4.63	4.63	3.68	3.70	3.90	4.41	4.48	3.67	3.57
感染性胃腸炎	2.83	5.36	7.63	7.60	7.44	6.90	5.73	5.46	5.48	5.61	5.33	4.28	4.11
水痘	0.15	0.14	0.15	0.13	0.14	0.14	0.12	0.13	0.13	0.14	0.14	0.13	0.13
手足口病	0.14	0.13	0.17	0.20	0.22	0.19	0.17	0.19	0.22	0.18	0.21	0.17	0.19
伝染性紅斑	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03
突発性発しん	0.12	0.21	0.21	0.20	0.20	0.18	0.19	0.19	0.21	0.20	0.22	0.21	0.23
ヘルパンギーナ	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.01	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
急性出血性結膜炎	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.72	0.89	0.64	0.59	0.53	0.51	0.47	0.42	0.45	0.43	0.38	0.42	0.51
細菌性髄膜炎	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.02
無菌性髄膜炎	0.01	0.02	0.03	0.03	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.03	0.01
マイコプラズマ肺炎	0.05	0.07	0.08	0.07	0.08	0.09	0.08	0.05	0.08	0.12	0.10	0.09	0.09
クラミジア肺炎（オウム病を除く）												0.01	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.01		0.01	0.02	0.01	0.02	0.01		0.01	0.01	0.01	0.02	0.01

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	0.28	0.33	0.37	0.39	0.39	0.37	0.28	0.29	0.38	0.45	0.52	0.55	0.64
新型コロナウイルス感染症	8.08	11.25	13.63	14.58	13.30	10.62	8.48	8.80	7.47	6.57	5.29	4.36	3.57
RSウイルス感染症	1.61	1.85	1.68	1.75	1.75	1.46	0.72	0.56	0.65	0.69	0.60	0.46	0.37
咽頭結膜熱	0.67	0.60	0.50	0.48	0.43	0.43	0.24	0.29	0.26	0.29	0.29	0.25	0.23
A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	3.42	3.00	2.38	2.26	2.03	1.89	1.01	1.57	1.75	1.89	2.07	1.78	1.64
感染性胃腸炎	3.95	3.71	2.89	2.85	2.79	2.71	1.43	2.42	2.63	2.87	2.87	2.48	2.36
水痘	0.23	0.20	0.16	0.18	0.16	0.15	0.12	0.13	0.12	0.14	0.13	0.14	0.13
手足口病	11.47	13.36	11.73	11.93	9.57	7.99	3.87	4.24	5.70	7.18	8.05	7.77	8.12
伝染性紅斑	0.10	0.09	0.12	0.11	0.11	0.13	0.07	0.13	0.16	0.18	0.21	0.17	0.18
突発性発しん	0.30	0.29	0.26	0.26	0.27	0.27	0.17	0.28	0.29	0.31	0.28	0.25	0.25
ヘルパンギーナ	2.15	2.42	1.95	2.11	1.70	1.32	0.56	0.70	0.82	0.81	0.72	0.50	0.39
流行性耳下腺炎	0.07	0.06	0.04	0.05	0.03	0.04	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
急性出血性結膜炎	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02	0.01		0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.63	0.55	0.46	0.51	0.53	0.45	0.34	0.54	0.47	0.45	0.45	0.41	0.41
細菌性髄膜炎	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.01	0.03	0.01	0.02
無菌性髄膜炎	0.02	0.03	0.03	0.03	0.04	0.05	0.02	0.03	0.03	0.07	0.05	0.05	0.05
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.69	0.72	0.79	0.98	1.19	1.32	1.21	1.21	1.23	1.44	1.51	1.68
クラミジア肺炎（オウム病を除く）				0.01									
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.01	0.01	0.01		0.01	0.02	0.01	0.01	0.01		0.01	0.01	

報告数が0の場合には空白としている

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
5.09	2.69	1.85	1.07	0.45	0.34	0.28	0.24	0.19	0.17	0.15	0.16	0.19
4.26	3.72	3.64	3.22	2.28	2.77	3.28	3.35	3.52	3.99	4.17	4.61	5.79
1.01	1.42	1.76	1.73	1.26	1.22	1.38	1.51	1.31	1.37	1.22	1.27	1.36
0.57	0.56	0.67	0.70	0.50	0.68	0.71	0.83	0.84	0.89	0.92	0.86	0.74
3.06	3.32	4.09	4.65	2.69	3.55	4.91	5.04	4.85	4.88	4.46	4.04	3.83
3.64	3.86	4.19	4.61	2.60	3.64	4.77	4.94	4.80	4.86	4.70	4.25	4.09
0.12	0.14	0.14	0.18	0.11	0.23	0.16	0.22	0.22	0.21	0.25	0.22	0.21
0.21	0.32	0.45	0.58	0.61	0.90	1.49	2.13	2.90	3.83	4.74	6.31	8.48
0.02	0.03	0.05	0.03	0.02	0.03	0.04	0.06	0.06	0.08	0.09	0.09	0.10
0.23	0.25	0.30	0.31	0.22	0.31	0.32	0.32	0.34	0.34	0.32	0.34	0.33
0.03	0.05	0.06	0.09	0.08	0.11	0.23	0.28	0.44	0.65	0.79	1.07	1.58
0.04	0.03	0.05	0.05	0.04	0.05	0.06	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.05	0.03	0.04	0.05	0.05	0.03
0.53	0.53	0.55	0.64	0.43	0.74	0.72	0.67	0.72	0.82	0.70	0.66	0.67
0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.03	0.02	0.01	0.02	0.04
0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04
0.09	0.11	0.14	0.16	0.14	0.18	0.17	0.29	0.23	0.26	0.33	0.40	0.42
						0.01						
0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.05	0.02	0.02

40週	10月				11月				12月				平均
	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.78	0.89	0.73	0.87	1.04	1.06	1.88	2.37	4.86	9.05	19.08	42.74	64.43	7.45
3.08	2.39	1.86	1.70	1.57	1.47	1.90	1.82	2.42	3.07	3.89	5.50	7.02	6.22
0.33	0.32	0.25	0.24	0.26	0.24	0.26	0.23	0.27	0.31	0.33	0.37	0.41	0.75
0.24	0.22	0.19	0.22	0.25	0.22	0.27	0.28	0.34	0.40	0.41	0.44	0.43	0.61
1.92	2.00	1.70	1.94	1.91	1.69	2.29	2.04	2.58	2.61	2.61	2.62	2.38	3.04
2.68	2.64	2.30	2.66	2.78	2.45	3.18	3.08	3.85	4.36	4.89	5.20	5.00	4.03
0.13	0.15	0.14	0.20	0.16	0.19	0.21	0.23	0.29	0.31	0.31	0.33	0.27	0.17
8.62	10.79	9.37	8.07	7.70	5.74	4.17	3.37	2.75	1.95	1.32	0.89	0.54	4.07
0.27	0.25	0.33	0.32	0.37	0.35	0.56	0.51	0.89	0.92	0.94	0.98	0.84	0.20
0.27	0.25	0.24	0.27	0.25	0.23	0.23	0.24	0.28	0.26	0.24	0.23	0.22	0.25
0.39	0.38	0.26	0.25	0.19	0.12	0.10	0.08	0.06	0.05	0.03	0.02	0.02	0.46
0.03	0.03	0.04	0.03	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.03	0.04
0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.05	0.06	0.05	0.02
0.42	0.50	0.38	0.49	0.49	0.45	0.49	0.53	0.63	0.71	0.81	0.84	0.89	0.56
0.04	0.02	0.01	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
0.05	0.06	0.04	0.04	0.05	0.04	0.04	0.03	0.03	0.04	0.03	0.02	0.03	0.03
1.99	2.00	2.05	2.49	2.50	2.42	2.86	2.57	2.28	2.30	1.81	1.52	1.35	0.90
		0.01	0.01	0.01				0.01			0.01		0.00
	0.01				0.01		0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.01

2024 年 感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルエンザ*	306	306	306	306	306	307	307	307	307	307	307	307	307
	小児科	197	197	197	197	197	198	198	198	198	198	198	198	198
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	51
	基幹	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18
インフルエンザ		3,602	3,710	5,901	7,306	9,069	9,146	6,582	4,160	2,761	2,445	2,018	1,541	1,254
新型コロナウイルス感染症		1,458	1,894	2,441	2,725	2,863	2,471	1,958	1,543	1,472	1,334	1,197	1,101	1,106
RSウイルス感染症		19	21	29	53	52	68	75	133	204	307	367	441	520
咽頭結膜熱		129	175	118	100	76	102	84	72	84	82	72	71	53
A群溶血性链球菌咽頭炎		303	512	715	758	814	851	569	600	617	709	658	609	501
感染性胃腸炎		488	917	1,432	1,542	1,638	1,446	1,163	1,119	1,179	1,228	1,197	1,005	928
水痘		30	30	31	27	27	28	18	16	25	26	18	28	27
手足口病		67	49	82	102	110	83	107	113	96	87	104	69	109
伝染性紅斑		1	6		1	2	4	3	2	4	2	1	1	7
突発性発しん		19	36	32	31	30	28	39	32	44	30	38	31	31
ヘルパンギーナ		15	3	9	15	10	11	14	17	10	4	8	5	6
流行性耳下腺炎		4	3	5	6	5	3	6	3	10	4	4	5	2
急性出血性結膜炎		2		1	1	1					1		1	
流行性角結膜炎		12	24	20	7	14	15	12	16	23	13	10	18	22
合計（RSウイルス流行性角結）		1,089	1,776	2,474	2,643	2,779	2,639	2,090	2,123	2,296	2,493	2,477	2,284	2,206
細菌性髄膜炎					3		3	2		1	1		2	
無菌性髄膜炎			1	1			1	1				1	1	1
マイコプラズマ肺炎			3	1	1	3	5	2	5	5	7	7	10	7
クラミジア肺炎（他の病を除く）							1				1		1	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）				1							1	1	5	2
合計（細菌性髄－0例）			4	3	4	3	10	5	5	6	10	9	19	10

		7月					8月				9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルエンザ*	305	305	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306
	小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
	眼科	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
インフルエンザ		128	150	114	139	104	89	35	82	99	132	94	111	150
新型コロナウイルス感染症		1,954	3,001	3,897	4,491	3,961	2,638	1,403	1,620	1,370	1,232	892	797	596
RSウイルス感染症		143	207	160	216	199	146	82	98	134	175	167	138	89
咽頭結膜熱		139	114	96	81	82	70	16	46	39	53	53	41	53
A群溶血性链球菌咽頭炎		597	557	436	409	355	319	160	272	310	356	393	339	278
感染性胃腸炎		780	715	618	621	588	525	242	515	569	622	603	540	493
水痘		63	36	35	41	44	36	31	23	24	27	22	25	21
手足口病		1,865	1,956	1,591	1,469	1,199	933	350	526	762	925	972	888	968
伝染性紅斑		6	4	4	1	10	7	1	5	5	8	4	6	11
突発性発しん		64	50	41	39	40	37	22	45	45	53	44	50	42
ヘルパンギーナ		280	325	292	255	234	157	75	83	94	71	59	49	28
流行性耳下腺炎		18	17	10	19	7	11	4	6	10	4	7	11	9
急性出血性結膜炎			2		2					1	1	1	1	
流行性角結膜炎		14	8	7	11	14	13	9	10	11	15	14	10	17
合計（RSウイルス流行性角結）		3,969	3,991	3,290	3,164	2,772	2,254	992	1,629	2,004	2,310	2,339	2,098	2,009
細菌性髄膜炎		1	1	3		2	2	3	1	1		1		
無菌性髄膜炎		1	3		2		3	1	3	1	1			1
マイコプラズマ肺炎		43	42	42	60	75	77	71	69	51	44	50	50	42
クラミジア肺炎（他の病を除く）			1	1	1						1			1
感染性胃腸炎（ロタウイルス）			3			1	3							
合計（細菌性髄－0例）		45	50	46	63	78	85	75	73	53	46	51	50	44

報告数が0の場合には空白としている

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
304	304	304	304	303	303	303	303	303	304	304	304	305
196	196	196	196	195	195	195	195	195	196	196	196	197
51	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	51
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
578	391	314	224	86	109	66	76	48	40	26	42	66
993	900	974	815	501	632	704	693	664	724	950	1,006	1,320
666	774	865	600	365	335	286	250	168	133	149	124	131
66	76	78	91	78	94	99	154	167	164	178	149	137
495	506	691	779	452	571	895	829	799	873	796	723	687
806	908	998	1,107	618	920	1,124	1,179	1,116	1,091	1,004	866	867
12	39	25	28	17	46	37	41	73	34	62	39	36
94	159	209	256	231	359	581	850	1,196	1,436	1,487	1,731	1,805
	1	4	2	3	4	2	6	3		3	4	9
45	54	59	52	38	58	53	44	59	58	54	44	57
9	16	21	16	30	50	79	121	165	206	227	254	281
5	5	8	10	5	7	6	11	18	23	19	7	15
1				1	1		1	1	1	1		
17	33	27	33	18	27	18	31	25	34	28	9	12
2,216	2,571	2,985	2,974	1,856	2,472	3,180	3,517	3,790	4,053	4,008	3,950	4,037
2	2		1				1	1			1	
		1		1			1		2	2	1	
7	6	10	13	9	14	13	15	17	13	19	35	31
			1			2		1		1		
1	2	2	2	1	2	1	1	1	1	8	1	1
10	10	13	17	11	16	16	18	20	16	30	38	32

	10月				11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
306	306	306	306	306	306	306	306	306	305	305	305	305	15,884
197	197	197	197	197	197	197	197	197	196	196	196	196	10,231
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2,697
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	932
256	294	168	201	243	246	604	663	1,506	3,110	6,656	13,988	20,697	111,620
592	460	310	318	257	245	347	318	447	420	544	874	1,155	68,578
95	124	104	78	112	135	160	103	124	162	177	189	220	10,872
53	40	41	45	38	56	57	44	69	106	82	72	93	4,428
363	326	271	336	304	243	325	259	314	327	371	350	322	26,204
580	579	537	610	664	532	678	710	846	1,015	1,040	991	1,003	45,102
29	25	21	42	21	33	34	30	36	41	55	41	51	1,707
1,086	1,271	1,046	924	818	697	500	406	344	230	158	111	65	33,632
10	6	18	15	26	19	13	10	23	26	30	27	25	395
62	43	42	50	52	26	42	43	37	52	40	46	40	2,243
34	42	18	16	20	12	7	7	7	7	7	2	4	3,787
1	6	5	7	12	7	6	8	9	11	7	10	8	429
		1	4	1			2		1	8	3	2	44
22	22	20	19	5	7	24	24	19	19	16	22	26	916
2,335	2,484	2,124	2,146	2,073	1,767	1,846	1,646	1,828	1,997	1,991	1,864	1,859	129,759
				1	1		3			1	1		42
2	1				2	1		1		2	1	2	43
62	52	63	61	66	55	57	63	50	52	34	29	12	1,630
		1		1									15
								1		3	2	2	49
64	53	64	61	68	58	58	66	52	52	40	33	16	1,779

2024 年 感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルインサ*	306	306	306	306	306	307	307	307	307	307	307	307	307
	小児科	197	197	197	197	197	198	198	198	198	198	198	198	198
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	51
	基幹	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18
インフルエンザ		11.77	12.12	19.28	23.88	29.64	29.79	21.44	13.55	8.99	7.96	6.57	5.02	4.08
新型コロナウイルス感染症		4.76	6.19	7.98	8.91	9.36	8.05	6.38	5.03	4.79	4.35	3.90	3.59	3.60
RSウイルス感染症		0.10	0.11	0.15	0.27	0.26	0.34	0.38	0.67	1.03	1.55	1.85	2.23	2.63
咽頭結膜熱		0.65	0.89	0.60	0.51	0.39	0.52	0.42	0.36	0.42	0.41	0.36	0.36	0.27
A群溶血性链球菌咽頭炎		1.54	2.60	3.63	3.85	4.13	4.30	2.87	3.03	3.12	3.58	3.32	3.08	2.53
感染性胃腸炎		2.48	4.65	7.27	7.83	8.31	7.30	5.87	5.65	5.95	6.20	6.05	5.08	4.69
水痘		0.15	0.15	0.16	0.14	0.14	0.14	0.09	0.08	0.13	0.13	0.09	0.14	0.14
手足口病		0.34	0.25	0.42	0.52	0.56	0.42	0.54	0.57	0.48	0.44	0.53	0.35	0.55
伝染性紅斑		0.01	0.03		0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.04
突発性発しん		0.10	0.18	0.16	0.16	0.15	0.14	0.20	0.16	0.22	0.15	0.19	0.16	0.16
ヘルパンギーナ		0.08	0.02	0.05	0.08	0.05	0.06	0.07	0.09	0.05	0.02	0.04	0.03	0.03
流行性耳下腺炎		0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02	0.05	0.02	0.02	0.03	0.01
急性出血性結膜炎		0.04		0.02	0.02	0.02					0.02			0.02
流行性角結膜炎		0.23	0.46	0.38	0.13	0.27	0.29	0.23	0.31	0.44	0.25	0.19	0.35	0.43
細菌性髄膜炎					0.18		0.17	0.11		0.06	0.06		0.11	
無菌性髄膜炎			0.06	0.06			0.06	0.06				0.06	0.06	0.06
マイコプラズマ肺炎			0.18	0.06	0.06	0.17	0.28	0.11	0.28	0.28	0.39	0.39	0.56	0.39
クラミジア肺炎（カラム菌を除く）							0.06				0.06		0.06	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)				0.06							0.06	0.06	0.28	0.11

		7月					8月				9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルインサ*	305	305	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306
	小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
	眼科	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
インフルエンザ		0.42	0.49	0.37	0.45	0.34	0.29	0.11	0.27	0.32	0.43	0.31	0.36	0.49
新型コロナウイルス感染症		6.41	9.84	12.74	14.68	12.94	8.62	4.58	5.29	4.48	4.03	2.92	2.60	1.95
RSウイルス感染症		0.73	1.05	0.81	1.10	1.01	0.74	0.42	0.50	0.68	0.89	0.85	0.70	0.45
咽頭結膜熱		0.71	0.58	0.49	0.41	0.42	0.36	0.08	0.23	0.20	0.27	0.27	0.21	0.27
A群溶血性链球菌咽頭炎		3.03	2.83	2.21	2.08	1.80	1.62	0.81	1.38	1.57	1.81	1.99	1.72	1.41
感染性胃腸炎		3.96	3.63	3.14	3.15	2.98	2.66	1.23	2.61	2.89	3.16	3.06	2.74	2.50
水痘		0.32	0.18	0.18	0.21	0.22	0.18	0.16	0.12	0.12	0.14	0.11	0.13	0.11
手足口病		9.47	9.93	8.08	7.46	6.09	4.74	1.78	2.67	3.87	4.70	4.93	4.51	4.91
伝染性紅斑		0.03	0.02	0.02	0.01	0.05	0.04	0.01	0.03	0.03	0.04	0.02	0.03	0.06
突発性発しん		0.32	0.25	0.21	0.20	0.20	0.19	0.11	0.23	0.23	0.27	0.22	0.25	0.21
ヘルパンギーナ		1.42	1.65	1.48	1.29	1.19	0.80	0.38	0.42	0.48	0.36	0.30	0.25	0.14
流行性耳下腺炎		0.09	0.09	0.05	0.10	0.04	0.06	0.02	0.03	0.05	0.02	0.04	0.06	0.05
急性出血性結膜炎			0.04		0.04					0.02	0.02	0.02	0.02	
流行性角結膜炎		0.27	0.16	0.13	0.21	0.27	0.25	0.17	0.19	0.21	0.29	0.27	0.19	0.33
細菌性髄膜炎		0.06	0.06	0.17		0.11	0.11	0.17	0.06	0.06		0.06		
無菌性髄膜炎		0.06	0.17		0.11		0.17	0.06	0.17	0.06	0.06			0.06
マイコプラズマ肺炎		2.39	2.33	2.33	3.33	4.17	4.28	3.94	3.83	2.83	2.44	2.78	2.78	2.33
クラミジア肺炎（カラム菌を除く）			0.06	0.06	0.06						0.06			0.06
感染性胃腸炎(ロタウイルス)			0.17			0.06	0.17							

報告数が0の場合には空白としている

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
304	304	304	304	303	303	303	303	303	304	304	304	305
196	196	196	196	195	195	195	195	195	196	196	196	197
51	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	51
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
1.90	1.29	1.03	0.74	0.28	0.36	0.22	0.25	0.16	0.13	0.09	0.14	0.22
3.27	2.96	3.20	2.68	1.65	2.09	2.32	2.29	2.19	2.38	3.13	3.31	4.33
3.40	3.95	4.41	3.06	1.87	1.72	1.47	1.28	0.86	0.68	0.76	0.63	0.66
0.34	0.39	0.40	0.46	0.40	0.48	0.51	0.79	0.86	0.84	0.91	0.76	0.70
2.53	2.58	3.53	3.97	2.32	2.93	4.59	4.25	4.10	4.45	4.06	3.69	3.49
4.11	4.63	5.09	5.65	3.17	4.72	5.76	6.05	5.72	5.57	5.12	4.42	4.40
0.06	0.20	0.13	0.14	0.09	0.24	0.19	0.21	0.37	0.17	0.32	0.20	0.18
0.48	0.81	1.07	1.31	1.18	1.84	2.98	4.36	6.13	7.33	7.59	8.83	9.16
	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.03	0.02		0.02	0.02	0.05
0.23	0.28	0.30	0.27	0.19	0.30	0.27	0.23	0.30	0.30	0.28	0.22	0.29
0.05	0.08	0.11	0.08	0.15	0.26	0.41	0.62	0.85	1.05	1.16	1.30	1.43
0.03	0.03	0.04	0.05	0.03	0.04	0.03	0.06	0.09	0.12	0.10	0.04	0.08
0.02				0.02	0.02		0.02	0.02	0.02	0.02		
0.33	0.65	0.53	0.63	0.35	0.52	0.35	0.60	0.48	0.65	0.54	0.17	0.24
0.11	0.11		0.06				0.06	0.06			0.06	
		0.06		0.06			0.06		0.11	0.11	0.06	
0.39	0.33	0.56	0.72	0.50	0.78	0.72	0.83	0.94	0.72	1.06	1.94	1.72
			0.06			0.11		0.06		0.06		
0.06	0.11	0.11	0.11	0.06	0.11	0.06	0.06	0.06	0.06	0.44	0.06	0.06

	10月				11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
306	306	306	306	306	306	306	306	306	305	305	305	305	15,884
197	197	197	197	197	197	197	197	197	196	196	196	196	10,231
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2,697
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	932
0.84	0.96	0.55	0.66	0.79	0.80	1.97	2.17	4.92	10.20	21.82	45.86	67.86	7.02
1.93	1.50	1.01	1.04	0.84	0.80	1.13	1.04	1.46	1.38	1.78	2.87	3.79	4.31
0.48	0.63	0.53	0.40	0.57	0.69	0.81	0.52	0.63	0.83	0.90	0.96	1.12	1.06
0.27	0.20	0.21	0.23	0.19	0.28	0.29	0.22	0.35	0.54	0.42	0.37	0.47	0.43
1.84	1.65	1.38	1.71	1.54	1.23	1.65	1.31	1.59	1.67	1.89	1.79	1.64	2.56
2.94	2.94	2.73	3.10	3.37	2.70	3.44	3.60	4.29	5.18	5.31	5.06	5.12	4.41
0.15	0.13	0.11	0.21	0.11	0.17	0.17	0.15	0.18	0.21	0.28	0.21	0.26	0.17
5.51	6.45	5.31	4.69	4.15	3.54	2.54	2.06	1.75	1.17	0.81	0.57	0.33	3.29
0.05	0.03	0.09	0.08	0.13	0.10	0.07	0.05	0.12	0.13	0.15	0.14	0.13	0.04
0.31	0.22	0.21	0.25	0.26	0.13	0.21	0.22	0.19	0.27	0.20	0.23	0.20	0.22
0.17	0.21	0.09	0.08	0.10	0.06	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.01	0.02	0.37
0.01	0.03	0.03	0.04	0.06	0.04	0.03	0.04	0.05	0.06	0.04	0.05	0.04	0.04
		0.02	0.08	0.02			0.04		0.02	0.15	0.06	0.04	0.02
0.42	0.42	0.38	0.37	0.10	0.13	0.46	0.46	0.37	0.37	0.31	0.42	0.50	0.34
				0.06	0.06		0.17			0.06	0.06		0.05
0.11	0.06				0.11	0.06		0.06		0.11	0.06	0.11	0.05
3.44	2.89	3.50	3.39	3.67	3.06	3.17	3.50	2.78	2.89	1.89	1.61	0.67	1.74
		0.06		0.06									0.02
								0.06		0.17	0.11	0.11	0.05

2024 年 感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

(ブロック別)														
疾患名	定点数	ブロック名	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	合 計
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市北部	大阪市西部	大阪市東部	大阪市南部	
		*1 インフルエンザ	1,912	1,390	2,117	1,577	1,248	1,508	1,768	1,040	780	1,140	1,404	15,884
		*2 小児科	1,184	870	1,300	1,005	832	988	1,092	728	520	776	936	10,231
		*3 眼科	256	208	312	260	208	260	309	260	104	312	208	2,697
		*4 基幹	104	104	104	104	104	100	52	52	52	52	932	
*1	インフルエンザ		10,342	6,896	16,190	10,766	12,476	11,975	13,114	8,368	7,505	5,618	8,370	111,620
	新型コロナウイルス感染症*6		7,715	4,474	10,248	5,494	6,380	8,175	7,897	4,801	2,985	4,694	5,715	68,578
*2	RSウイルス感染症		646	412	1,728	1,259	1,119	1,001	1,117	1,619	559	682	730	10,872
	咽頭結膜熱		275	197	577	727	571	349	588	365	105	302	372	4,428
	A群溶血性レ球菌咽頭炎		1,976	1,231	4,499	2,296	2,477	3,400	2,795	1,361	1,040	1,657	3,472	26,204
	感染性胃腸炎		4,957	4,312	6,408	5,140	5,258	4,226	4,887	2,645	1,787	1,211	4,271	45,102
	水痘		300	150	258	209	160	172	178	81	66	54	79	1,707
	手足口病		3,117	2,358	5,821	4,369	2,818	2,811	3,175	3,273	1,360	1,507	3,023	33,632
	伝染性紅斑		60	57	106	41	37	14	25	13	2	21	19	395
	突発性発しん		268	120	367	401	232	161	187	172	74	99	162	2,243
	ヘルパンギーナ		295	213	569	578	393	319	264	643	198	158	157	3,787
	流行性耳下腺炎		38	30	75	67	57	35	38	36	27	11	15	429
*3	急性出血性結膜炎		9		20	2	2	1	5	3	1	1		44
	流行性角結膜炎		103	66	119	72	94	70	103	61	26	134	68	916
合 計 (小児科、眼科定点把握)			12,044	9,146	20,547	15,161	13,218	12,559	13,362	10,272	5,245	5,837	12,368	129,759
*4	細菌性髄膜炎		1	12		18	2	2	2		2	3		42
	無菌性髄膜炎		5	7	5	14	2	8				2		43
	マイコプラズマ肺炎		137	178	137	109	196	351	187		128	207		1,630
	クラミジア肺炎（カラム病を除く）				1	12			2					15
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	2	5	1	9	10	2		9	10		49
合計 {細菌性髄膜炎 － 感染性胃腸炎(ロタウイルス)}			144	199	148	160	209	375	193		139	222		1,779
*5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		119	62	25	34	410	157	101	20	33	13	65	1,039
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		13		6		36	14	13					82
	薬剤耐性緑膿菌感染症				2				1					3
合計（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症－ 薬剤耐性緑膿菌感染症）			132	62	33	34	446	171	115	20	33	13	65	1,124

*1 インフルエンザ/COVID-19定点把握疾患
*2 小児科定点把握疾患
*3 眼科定点把握疾患
*4 基幹定点把握疾患（週報）
*5 基幹定点把握疾患（月報）

報告数が0の場合には空白としている

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

2024 年 感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

(年齢別)		年齢区分																			合計	
疾病名		6 ヶ 月 未 満	12 ヶ 月 未 満	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳 か ら 14 歳	15 歳 か ら 19 歳	20 歳 か ら 29 歳	30 歳 か ら 39 歳	40 歳 か ら 49 歳	50 歳 か ら 59 歳	60 歳 か ら			
																					合計	
*1	インフルエンザ	493	1,234	3,742	4,121	4,528	5,488	6,150	6,860	7,138	7,462	7,080	25,252	7,023	25,049					111,620		
	新型コロナウイルス感染症	1,132	1,644	2,387	1,330	1,040	997	1,031	1,025	1,010	1,043	1,059	5,798	3,455	45,627					68,578		
*2	RSウイルス感染症	1,415	2,001	3,525	1,971	943	426	201	82	49	36	40	111	20	52					10,872		
	咽頭結膜熱	33	302	1,235	692	507	423	379	259	153	94	69	164	24	94					4,428		
	A群溶血性Ⅱ球菌咽頭炎	19	160	955	1,435	2,467	3,082	3,217	3,040	2,576	2,157	1,714	3,512	479	1,391					26,204		
	感染性胃腸炎	603	2,937	5,893	4,821	4,249	3,961	3,734	3,184	2,634	2,434	1,991	4,792	830	3,039					45,102		
	水痘	13	42	94	75	86	93	130	167	181	193	169	401	27	36					1,707		
	手足口病	305	2,626	9,297	6,015	4,450	3,811	2,836	1,646	919	636	370	518	48	155					33,632		
	伝染性紅斑		8	37	38	41	73	54	38	28	34	17	22	1	4					395		
	突発性発しん	21	511	1,261	284	119	47													2,243		
	ヘルパンギーナ	25	350	880	697	555	433	345	150	113	71	33	75	5	55					3,787		
	流行性耳下腺炎	2	3	12	18	33	54	69	48	38	56	35	57	1	3					429		
*3	急性出血性結膜炎			2			1					2	4	35					44			
	流行性角結膜炎	2	4	27	29	16	34	23	12	13	10	4	29	29	684					916		
合 計		2,438	8,944	23,218	16,075	13,466	12,438	10,988	8,626	6,704	5,721	4,444	9,685	1,464	5,548					129,759		
*4	細菌性髄膜炎	3		1	1			2			2		3	2	1	2	2	4	19	42		
	無菌性髄膜炎	7	1	3				2		1		2	3	2	1	4	4	3	10	43		
	マイコプラズマ肺炎	9	15	37	80	80	82	110	116	146	129	125	456	99	53	36	28	14	15	1,630		
	クラミジア肺炎（われ病を除く）		1									1		1			1	1	10	15		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1	6	3	1	4	5	10	4	3	5	4		1	1				49		
合計 {細菌性髄膜炎 －感染性胃腸炎(ロタウイルス)}		20	18	47	86	81	86	119	126	151	135	135	468	107	56	43	35	22	54	1,779		
*5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	24	9	6	6	4	3	5	5	6	3	4	17	23	24	25	56	87	732	1,039		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	7	14	6	3	4	2	3				1			2	3	4	31	82		
	薬剤耐性緑膿菌感染症																		3	3		
合計 {メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 －薬剤耐性緑膿菌感染症}		26	16	20	12	7	7	7	8	6	3	4	18	23	24	27	59	91	766	1,124		

*1 インフルエンザ/COVID-19定点把握疾患

*2 小児科定点把握疾患

*3 眼科定点把握疾患

*4 基幹定点把握疾患（週報）

*5 基幹定点把握疾患（月報）

報告数が0の場合には空白としている

2. 各感染症状況報告

1) インフルエンザ／COVID-19 定点把握疾患

●インフルエンザ

令和 6 年（2024 年）のインフルエンザの患者発生は、第 35 週までは 2023/2024 年シーズンを第 36 週以降は 2024/2025 年シーズンが反映されている。令和 6 年のインフルエンザ定点からの累積報告数は、全国 1,911,403（定点あたり累積報告数 387.22）、大阪府 111,620（定点あたり累積報告数 364.98）であり、前年（2023 年）の累積報告数（全国 2,311,261、大阪府 128,372）よりは減少がみられたものの、2014 年以降の過去 10 年間比較すると、2023 年に次いで多い値であった。また、2024 年第 52 週の定点あたり報告数（全国 64.43 大阪府 67.86）はどちらも 2000 年以降では最高値であった（図）。なお、2024/2025 年シーズンのインフルエンザの定点あたり報告数は、全国平均値、大阪府共にこの 2024 年第 52 週が最高値で、2025 年の 1 月に入って以降は速やかな減少がみられている。

2024 年の国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると（<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/graphdata/130/index.html>）、総検出数は 5,741 株（AH1pdm 2,809 株 48.9%、AH3 亜型 796 株 13.9%、A 亜型不明 12 株、B ビクトリア系統 2,062 株 35.9%、B 系統不明 62 株）であり、AH1pdm が最多を占め、次いで B 型の順であった。一方、2024 年の中で 2023/2024 年シーズンに該当する期間（2024 年 1～8 月）のインフルエンザウイルスの総検出数は 3,445 株（AH1pdm 20.0%、AH3 亜型 19.4%、B ビクトリア系統 58.7）と B ビクトリア系統が最多を占めていたのに対して、2024/2025 年シーズンの該当期間（2024 年 9～12 月）では、総検出数 2,296 株（AH1pdm 92.3%、AH3 亜型 5.6%、B ビクトリア系統 1.7%）と AH1pdm が大半を占めていた。

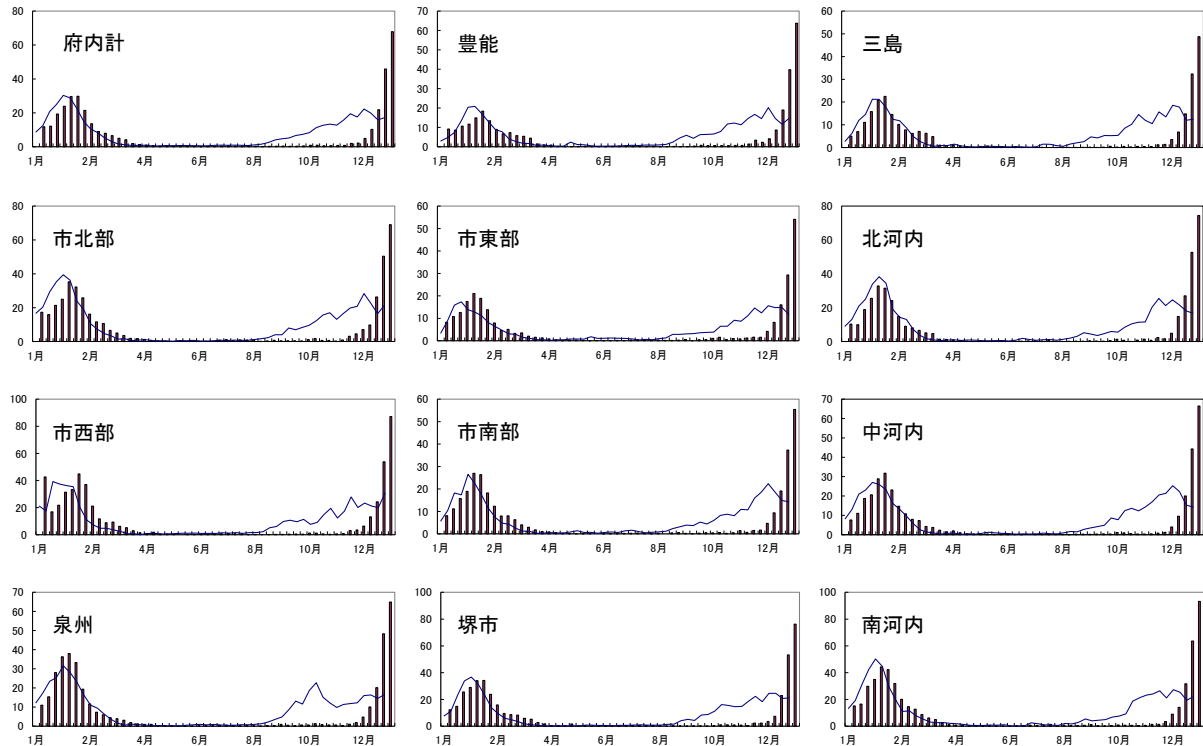
新型コロナウイルスの流行の影響か、2020 年第 12 週～2022 年第 50 週までの期間はインフルエンザの流行は見られなかったが、2023 年の累積患者報告数は過去 10 年間で最多となり、2024 年第 52 週の定点あたり報告数は過去最大の値となった。これらは、新型コロナウイルス流行の影響の減弱と、非流行期間の長期化によるインフルエンザウイルスに対する感受性者の蓄積が関与している可能性が考えられる。しかし、インフルエンザの流行規模、流行時期は新型コロナウイルスの流行がみられなかった 2019 年以前とは異なっている。2025 年以降のインフルエンザの流行が、2019 年以前の流行規模、流行時期に近づいていくのか、あるいはこれまでとは異なった状況が続いていくのか等については、これからも注意深い観察が必要であると思われる。

（文責：安井）

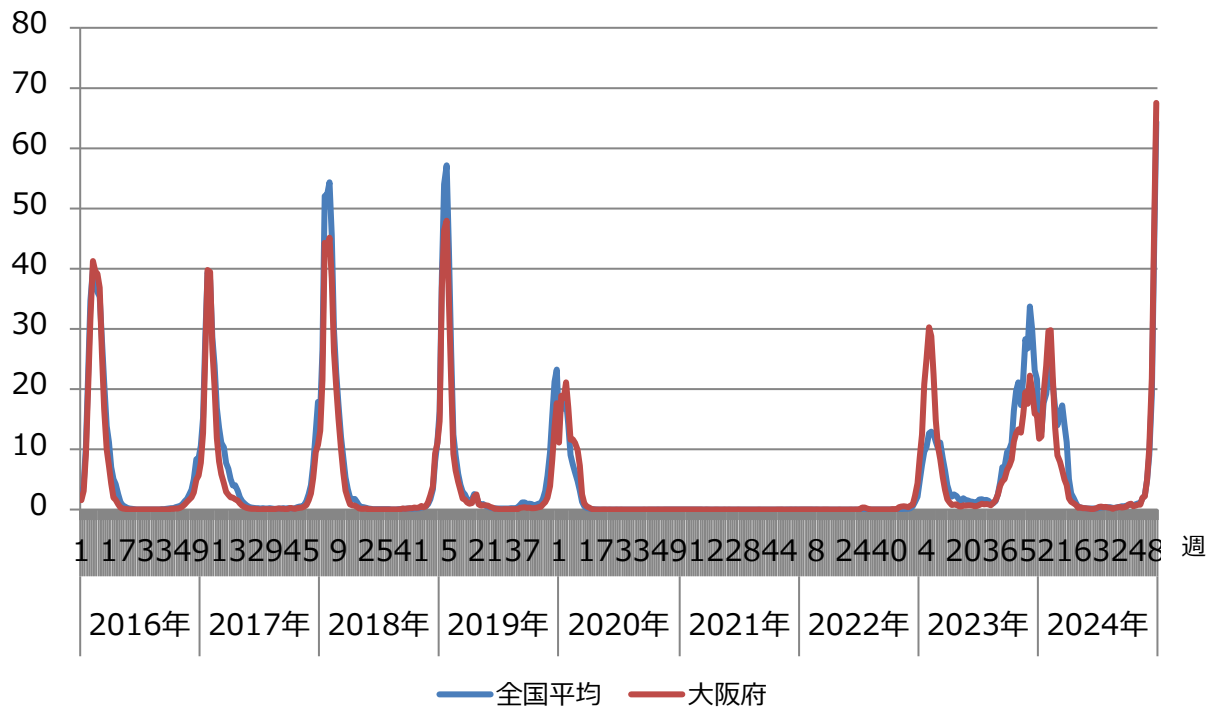
インフルエンザ

線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移



2016 年～2024 年のインフルエンザ定点あたり報告数週別推移（全国平均、大阪府）

●新型コロナウイルス感染症

2024年の新型コロナウイルス感染症の患者報告数は、68,578例で、定点あたり報告数の平均は4.31である。

大阪府の週別（月別）の定点あたり報告数は、2023年第46週（11月第2週）以降増加しており、2024年第5週（1月第5週）に9.36となった。その後減少傾向に転じ、第18週（4月第4週）に1.65まで減少したが再び、増加傾向となり、第30週（7月第4週）に最大値14.68となった。その後は、減少傾向で推移し、第45週（11月第1週）0.80と最小値となった。第46週（11月第2週）以降は、再び、緩やかに増加している。

全国集計の同報告数は、第1週（1月第1週）6.98に始まり、第5週（1月第5週）に16.15となった。その後減少傾向となり、第18週（5月第3週）に2.28まで減少したが再び増加に転じ、第30週（7月第4週）に最大値14.58となった。その後、減少し第47週（11月第3週）1.82と最小値となり、再び増加に転じている。

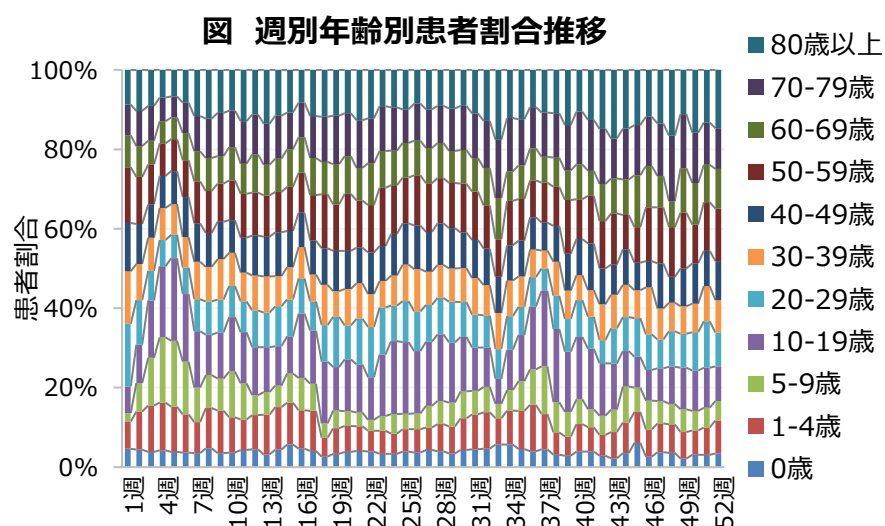
大阪府において、年齢別患者発生数では、多い順に、10-19歳 9,253例（13.5%）、50-59歳 7,593例（11.1%）、80歳以上 7,294例（10.6%）、70-79歳 6,972例（10.2%）、40-49歳 6,428例（9.4%）の順であった。一方、少ない順に、0歳 2,776例（4.0%）、5-9歳 5,168例（7.5%）、60-69歳 5,581例（8.1%）の順であった（図）。5-19歳が21.0%、70歳以上が20.8%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは、高い順に、堺市 5.42、南河内 5.11、北河内 4.83、大阪市北部 4.65、泉州 4.47であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数が高かった上位5ブロックは、堺市 20.38（7月第4週第30週）、北河内 17.73（7月第4週第30週）、大阪市北部 16.60（7月第4週第30週）、南河内 15.08（7月第4週第30週）、泉州 14.74（7月第4週第30週）の順であった。

これまで、新型コロナウイルス感染症の報告数は、夏期と冬期に増加し、感染波を形成したが、2024年も、同様の傾向が見られた。

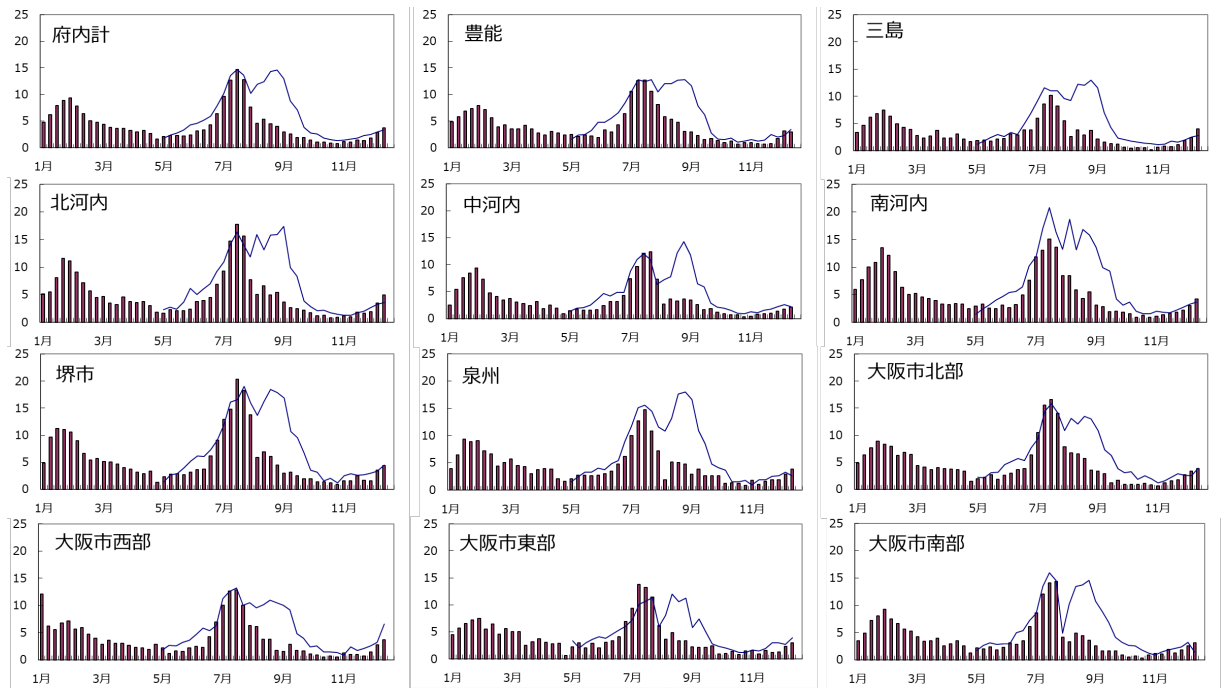
（文責 皐月）



新型コロナウイルス感染症

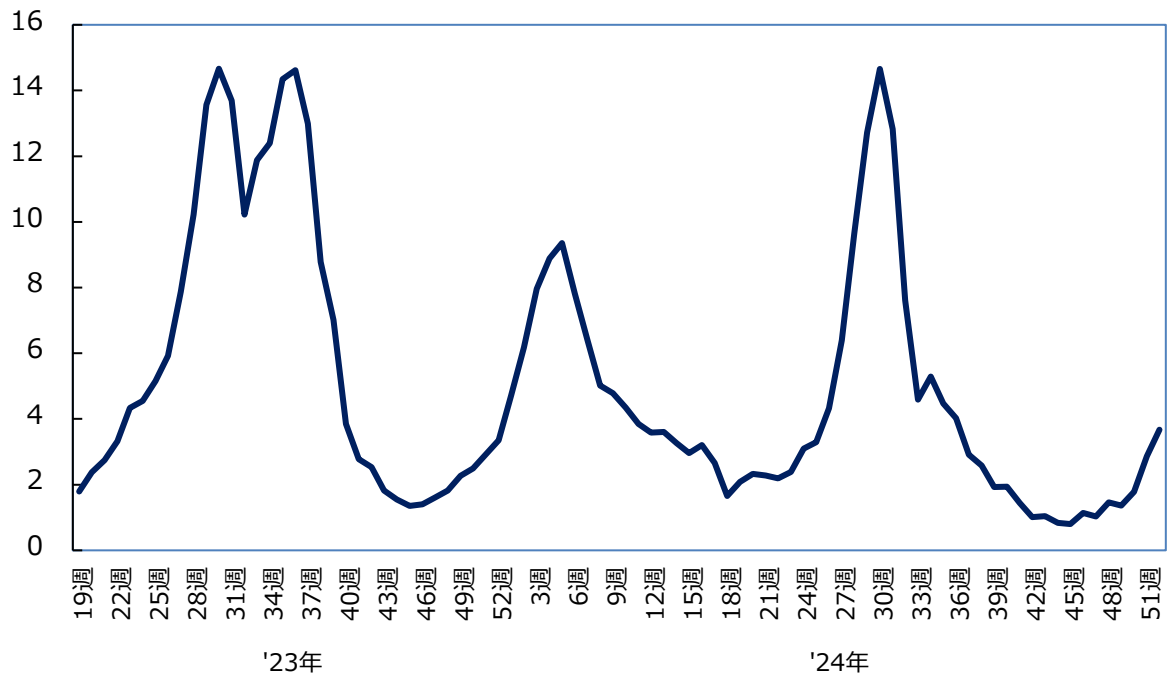
線（2023年第1週～第52週）

棒（2024年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2023年19週～2024年52週）



定点あたり新型コロナウイルス感染症報告数（府内計）の週別推移

2) 小児科定点把握疾患

●RS ウイルス感染症

2024 年の RS ウイルス感染症の患者報告数は 10,872 例で、前年比 4.0%増の報告数となり、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 8.4%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 1.06 で順位は第 4 位であった。

全国集計においては 122,794 例の報告で、前年比 15.6%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 5.5%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.75、順位は第 4 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.10 に始まり、以後増加し第 8 週（2 月）には暫定府内流行開始目安値の 0.4 を超えた。また第 9 週には 1 を超え、第 16 週（4 月）に年間最高値となる 4.41 に達した。その後減少し、第 22 週（5 月）に 0.86 となった後は、ほぼ 0.4 から 1.1 の範囲で増減を伴い推移した。第 47 週（11 月）に 0.52 となって以後増加に転じ、第 52 週（12 月）は 1.12 であった。第 21 週（5 月）に最高値となった 2023 年よりもさらに早い時期に年間最高値がみられた。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.04 に始まり第 16 週（4 月）まで増加し 1.76 となった。以後第 31 週（7 月）まで 1.22 から 1.85 の範囲で小幅な増減を繰り返す第 28 週（7 月）に年間最高値の 1.85 となった。第 32 週（8 月）以後減少し、第 47 週（11 月）に 0.23 となった。第 48 週以降は増加に転じ第 52 週（12 月）は 0.41 であった。年間最高値は第 28 週（7 月）に見られ、前年の第 27 週（7 月）とほぼ同時期であった。

年齢階層別患者発生数は、1 歳の 3,525 例が最も多く、以下 6 か月～11 か月の 2,001 例、2 歳 1,971 例、6 か月未満の 1,415 例と続く。0 歳児から 2 歳児で全体の 82.0%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは③北河内（1,728 例）、⑧大阪市北部（1,619 例）、④中河内（1,259 例）、⑤南河内（1,119 例）、⑦泉州（1,117 例）であった。

ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは⑧大阪市北部（2.22）、⑤南河内（1.34）、③北河内（1.33）、④中河内（1.25）、⑨大阪市西部（1.08）であった。

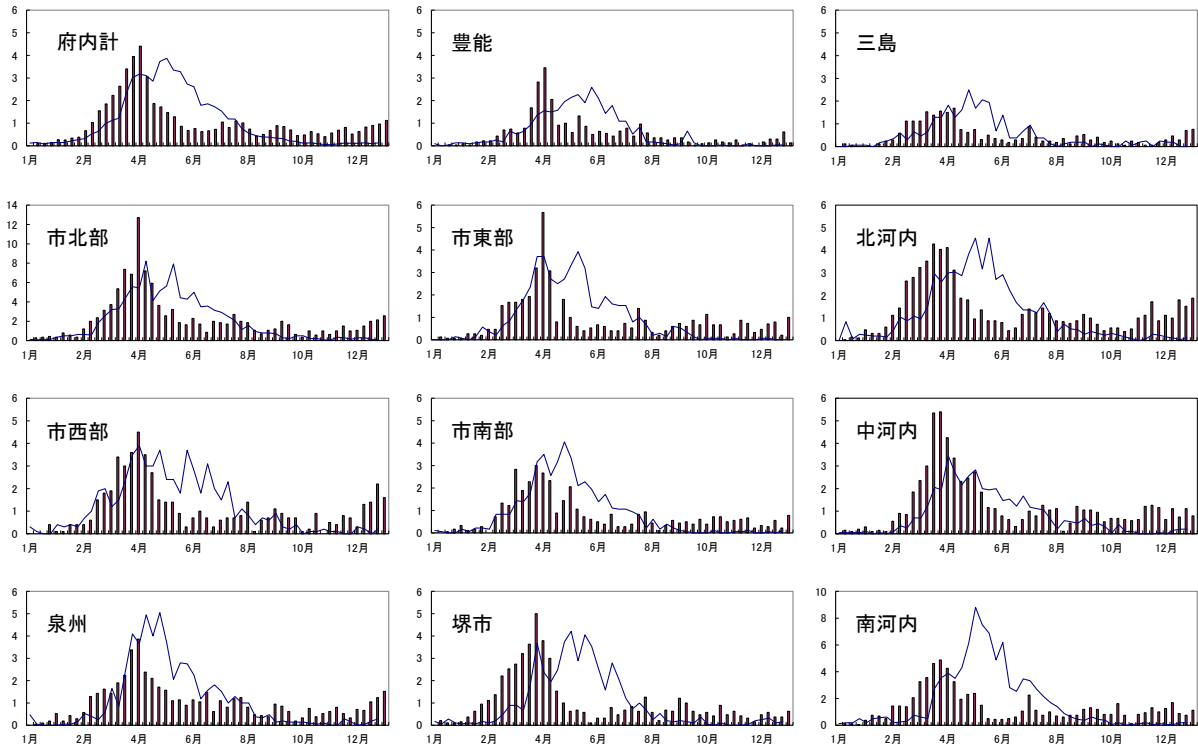
病原体定点医療機関からの検体数は前年比 34.6%減の 34 件で、そのうち 22 検体（64.7%）からウイルスが検出された。内訳は重複例を含めて RS ウイルス A 型が 13 例、RS ウイルス B 型が 5 例、ヒトメタニューモウイルス 3 例、アデノウイルス 1 型、エンテロウイルス D68 型、型不明のライノウイルスが 1 例ずつであった。

（文責 山本）

RS ウイルス感染症

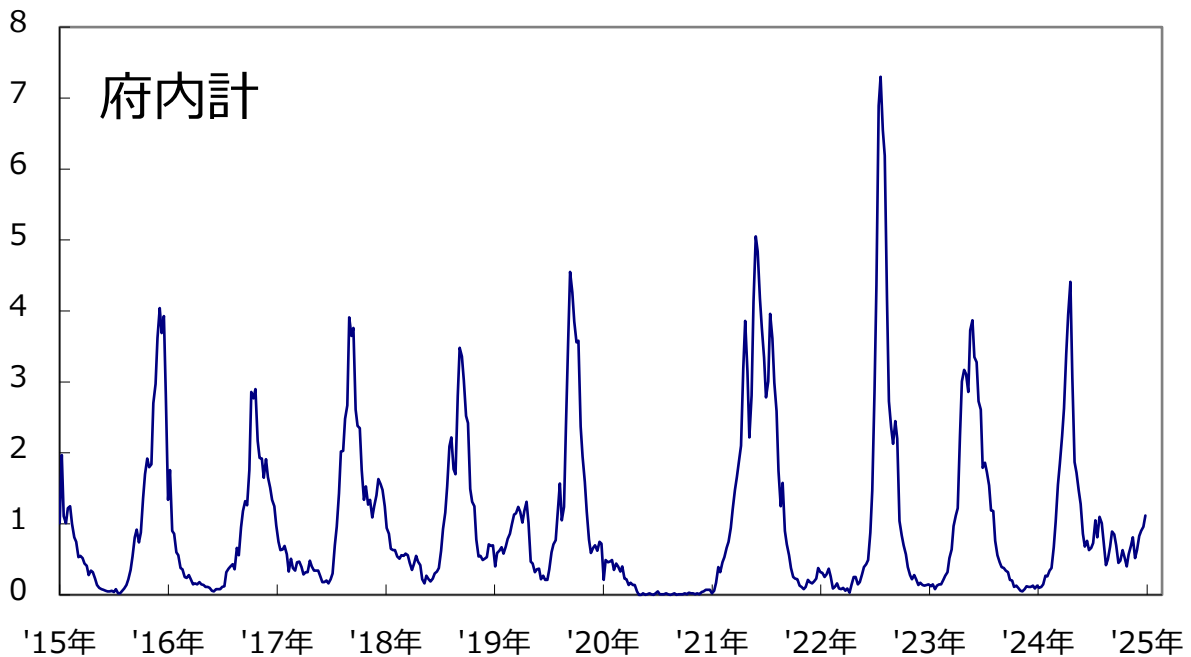
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



定点あたり RS ウイルス感染症報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●咽頭結膜熱

2024 年の咽頭結膜熱の患者報告数は 4,428 例で、前年比 72.5%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 3.4%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.43 で、順位は第 5 位であった。

全国集計では 99,438 例の報告で、前年比 44.2%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 4.4%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.61 で、順位は第 5 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.66 に始まり第 2 週（1 月）には 0.89 となった。その後第 6 週（2 月）までは 0.5 前後で推移し、第 7 週（2 月）から第 18 週（4 月）までは 0.4 前後で推移した。第 18 週（4 月）以降緩やかに上昇し第 24 週（6 月）には年間最高の 0.91 となった。第 24 週（6 月）以降は減少傾向となり、第 32 週（8 月）以降は第 48 週（11 月）まで 0.4 未満で推移した。第 47 週（11 月）以降緩やかな上昇に転じ第 48 週（11 月）以降は 0.35 から 0.54 の範囲で推移した。2024 年最終週の第 52 週（12 月）は 0.47 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）に年間最高の 1.46 で始まり、第 7 週（2 月）に 0.91 となった後は第 25 週（6 月）まで 0.50 から 0.95 の範囲で小幅な増減を繰り返し推移した。第 26 週（6 月）以後減少傾向となり、第 33 週（8 月）以降は第 47 週（11 月）まで 0.3 未満で推移し、第 42 週（10 月）には年間最低の 0.19 となった。第 47 週（11 月）以降緩やかに増加し、2024 年最終週の第 52 週（12 月）は 0.43 であった。

年齢階層別患者発生数は、1 歳児の 1,235 例が最も多く、以下 2 歳児 692 例、3 歳児 507 例、4 歳児 423 例、5 歳児の 379 例でこれらの年齢層で全体の 73.1%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは④中河内（727 例）、⑦泉州（588 例）、③北河内（577 例）、⑤南河内（571 例）、⑪大阪市南部（372 例）であった。

ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは④中河内（0.73）、⑤南河内（0.69）、⑦泉州（0.54）、⑧大阪市北部（0.50）、③北河内（0.44）であった。

病原体定点医療機関からの検体数は前年比 58.8%減の 14 件で、そのうち 11 検体（78.6%）からウイルスが検出された。ヒトメタニューモウイルスの 1 例以外はアデノウイルスで、アデノウイルス 2 型 5 例、3 型 3 例、1 型 1 例、54 型 1 例であった。

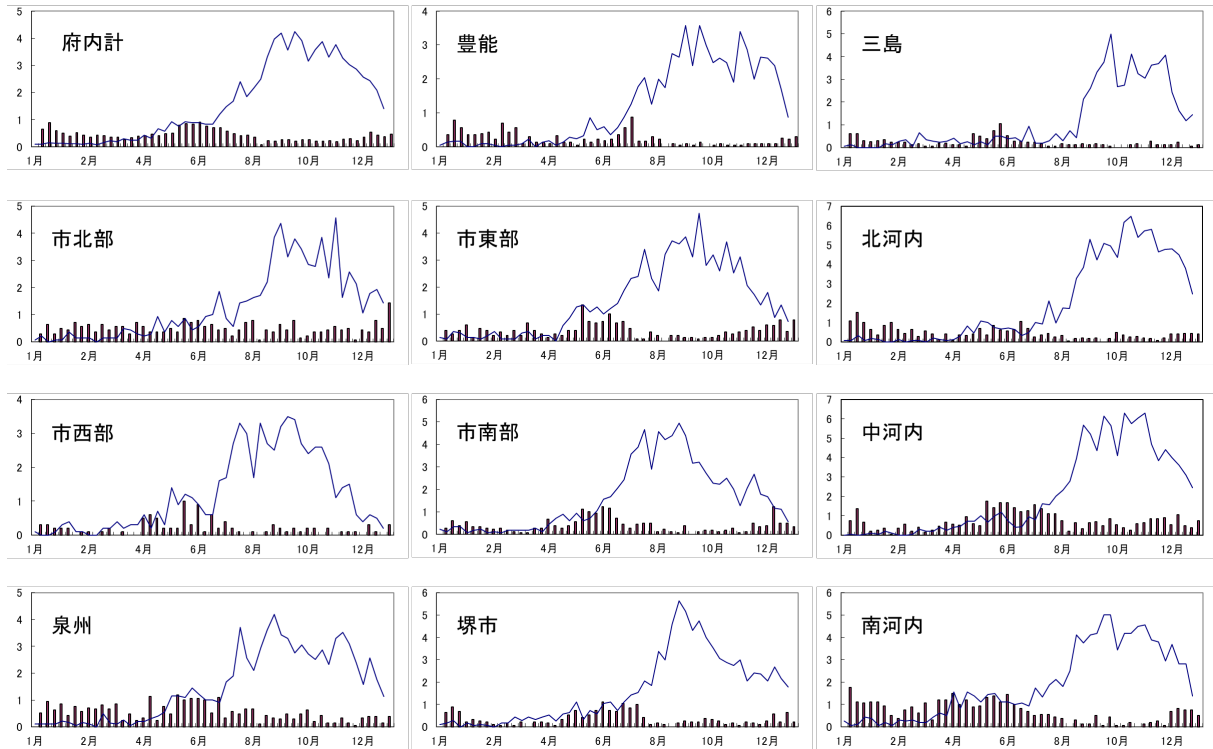
（文責 山本）

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

咽頭結膜熱

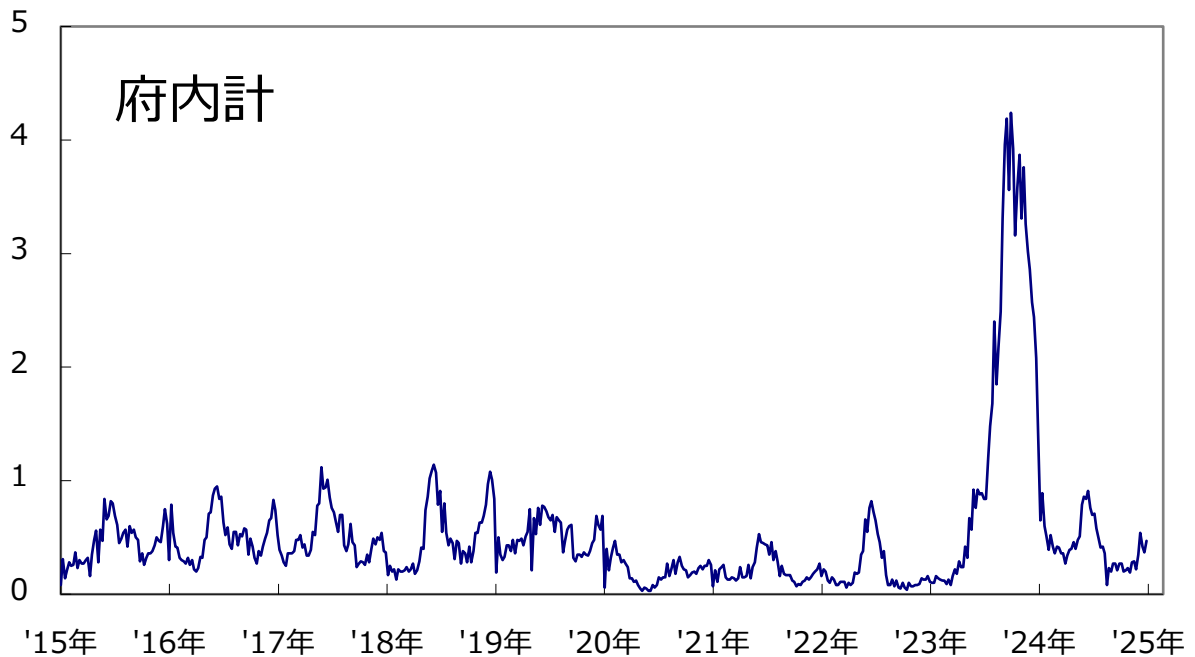
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



定点あたり咽頭結膜熱報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024 年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は 26,204 例で、前年比 23.3%増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 20.2%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 2.56 で、順位は第 3 位であった。

全国集計では 495,928 例の報告で、前年比 86.3%増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 22.1%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 3.04 で、順位は第 3 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第 1 週～第 5 週（1 月）の平均は 3.15 で、その後ほぼ同じレベルで推移した。第 20 週（5 月）より増加し、第 20 週（5 月）は 4.59 で年間最高値であった。第 19 週～第 22 週（5 月）の平均は 3.97、第 23 週～第 26 週（6 月）の平均は 3.92 で、5 月・6 月ともに 1 標準偏差以上多かった。第 29 週（7 月）より減少し、第 33 週（8 月）に 0.81 と年間最低値となった。第 32 週～第 35 週（8 月）の平均は 1.35 で、その後第 52 週まではほぼ同じレベルであったが、10 月・11 月は 1 標準偏差以上少なかった。

全国集計では、第 1 週～第 5 週（1 月）の平均は 3.57 で、その後若干の増減を繰り返して、第 21 週（5 月）に 5.04 と年間最高値となった。第 19 週～第 22 週（5 月）の平均は 4.59、第 23 週～第 26 週（6 月）の平均は 4.30 で、5 月・6 月ともに 1 標準偏差以上多かった。その後第 29 週（7 月）より減少して、第 33 週（8 月）に 1.01 と年間最低値となった。第 32 週～第 35 週（8 月）の平均は 1.56、第 36 週～第 40 週（9 月）の平均は 1.86、第 41 週～第 44 週（10 月）の平均は 1.89 で、8 月・9 月・10 月は 1 標準偏差以上少なかった。その後第 46 週（11 月）より増加傾向となり、第 45 週～第 48 週（11 月）は 2.15、第 49 週～第 52 週（12 月）は 2.56 となった。大阪府、全国ともに、2024 年は初夏のピークはみられたが、冬のピークは認められなかった。

年齢別患者報告数は、10～14 歳の 3,512 例が最も多かったが、以下 5 歳 3,217 例、4 歳 3,082 例、6 歳 3,040 例、7 歳 2,576 例、3 歳 2,467 例と続き、3 歳から 7 歳で全体の 54.9%を占めた。

ブロック別・年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（4,499 例）、⑪大阪市南部（3,472 例）、⑥堺市（3,400 例）、⑦泉州（2,795 例）、⑤南河内（2,477 例）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数年平均の上位 5 ブロックは、⑪大阪市南部（3.71）、③北河内（3.46）、⑥堺市（3.44）、⑤南河内（2.98）、⑦泉州（2.56）の順であった。

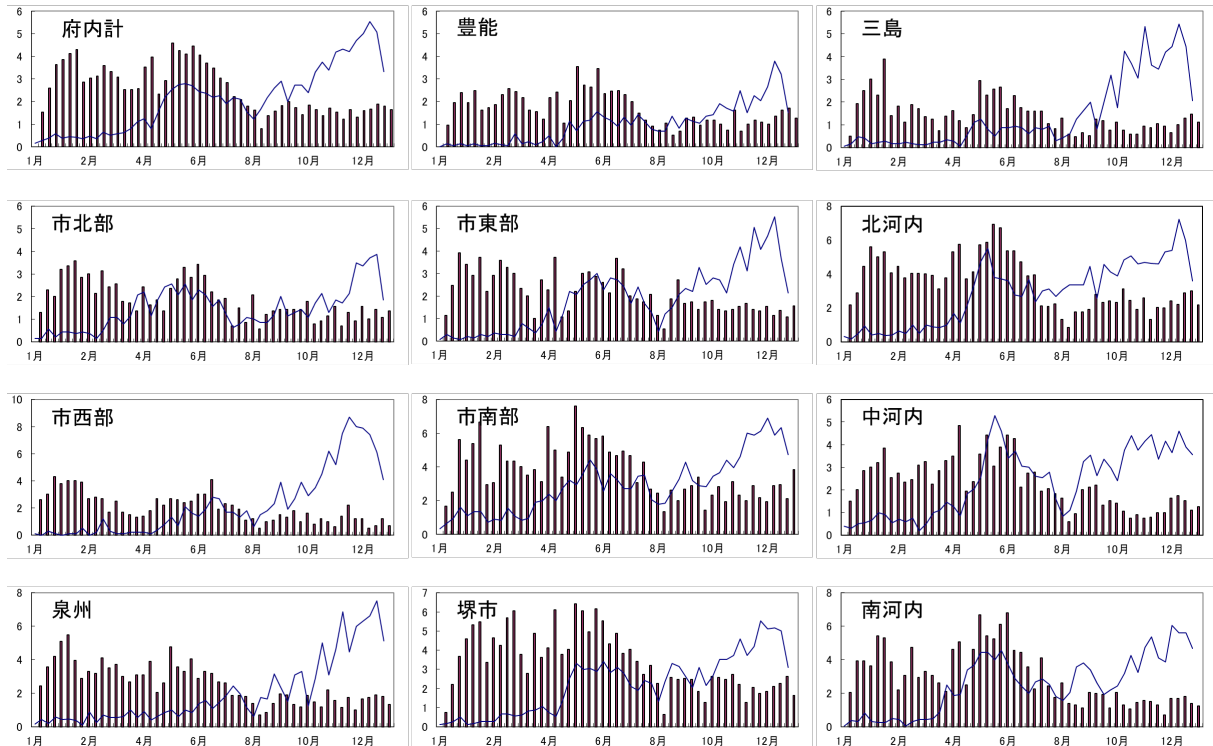
ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、⑪大阪市南部（第 20 週、7.61）、③北河内（第 22 週、6.92）、⑤南河内（第 24 週、6.81）、③北河内（第 23 週、6.72）、⑤南河内（第 20 週、6.69）の順であった。

（文責：富吉）

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

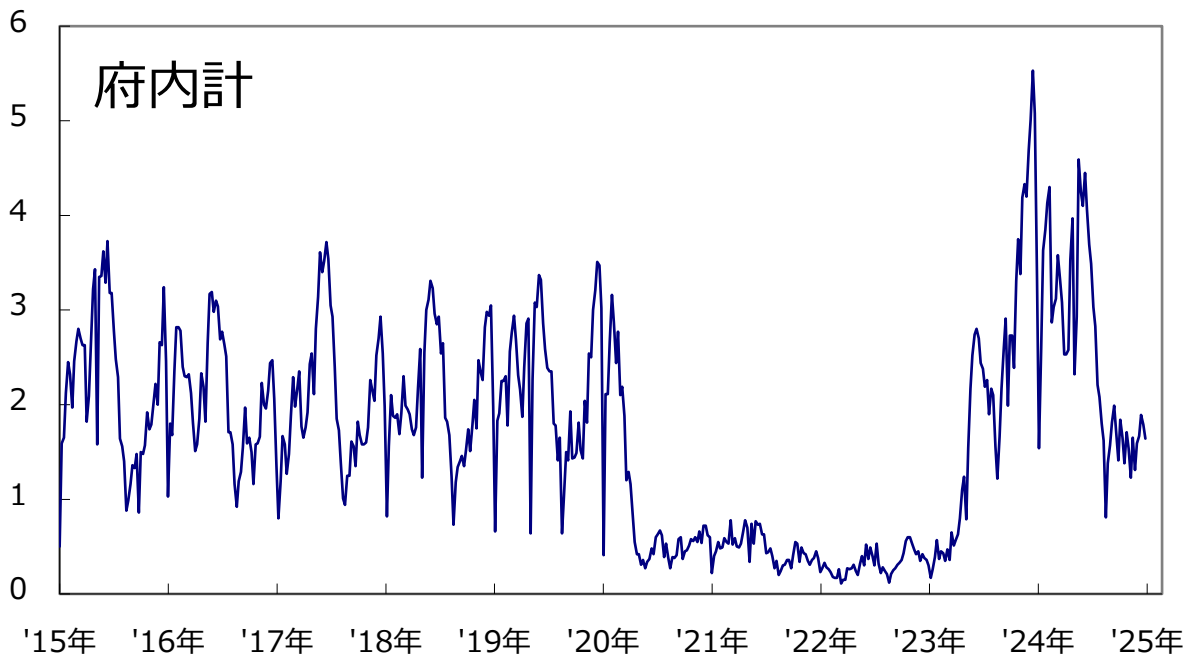
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



定点あたり A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●感染性胃腸炎

2024 年の感染性胃腸炎の報告数は 45,102 例で、前年より 129 例、0.3%増加した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 34.8%を占め、第 1 位であった。定点あたり報告数の年平均は 4.41 で、前年 4.45 より 0.9%減少し、過去 10 年でみると 4 番目の低値であった。全国集計では報告数 657,411 例で、前年より 14.2%減少し、総報告数の 29.3%を占めた。定点あたり報告数は年平均 4.03 と前年 4.69 より 14.1%減少し、過去 10 年で 4 番目の低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、前年冬からの増加傾向に続き、第 5 週には年間最高値である 8.31 まで達しピークを形成した。その後、第 14 週 4.11 まで緩やかに減少した後に再び増加に転じ、第 17 週には 5.65 に達した。第 18 週は 3.17 まで減少したが、再度大きく上昇し、第 21 週には年間で 2 番目に高い値である 6.05 まで達した。その後は緩やかな減少が続き、第 33 週に年間最低値 1.23 まで低下した。第 34 週 2.61 からは緩やかに増加し続けていたが、第 47 週 3.60、第 48 週 4.29 と大きく増加し、第 50 週には 5.31 まで達した。

定点あたり報告数の月別平均値は、2 月、1 月、5 月、3 月、12 月、6 月の順で高かった。春及び夏にピークを認め、その後は例年同様秋から冬にかけて漸増する流行曲線を示した。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値 20.0 を超えたブロックは無かった。ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 6.32、④中河内 5.09、②三島 4.98、③北河内 4.93、⑪大阪市南部 4.56、⑦泉州 4.48、⑥堺市 4.28、①豊能 4.20、⑧大阪市北部 3.63、⑨大阪市西部 3.44、⑩大阪市東部 1.56 の順であった。

年齢別報告数（0～9 歳）は、1 歳、2 歳、3 歳、4 歳、5 歳、0 歳、6 歳、7 歳、8 歳、9 歳の順に多かった。0～4 歳の報告数は 22,464 例で全体の 49.8%を占めた。5～9 歳が 13,977 例（31.0%）、10～14 歳が 4,792 例（10.6%）、15 歳以上が 3,869 例（8.6%）であり、全体のおよそ半数を 4 歳以下が占めた。

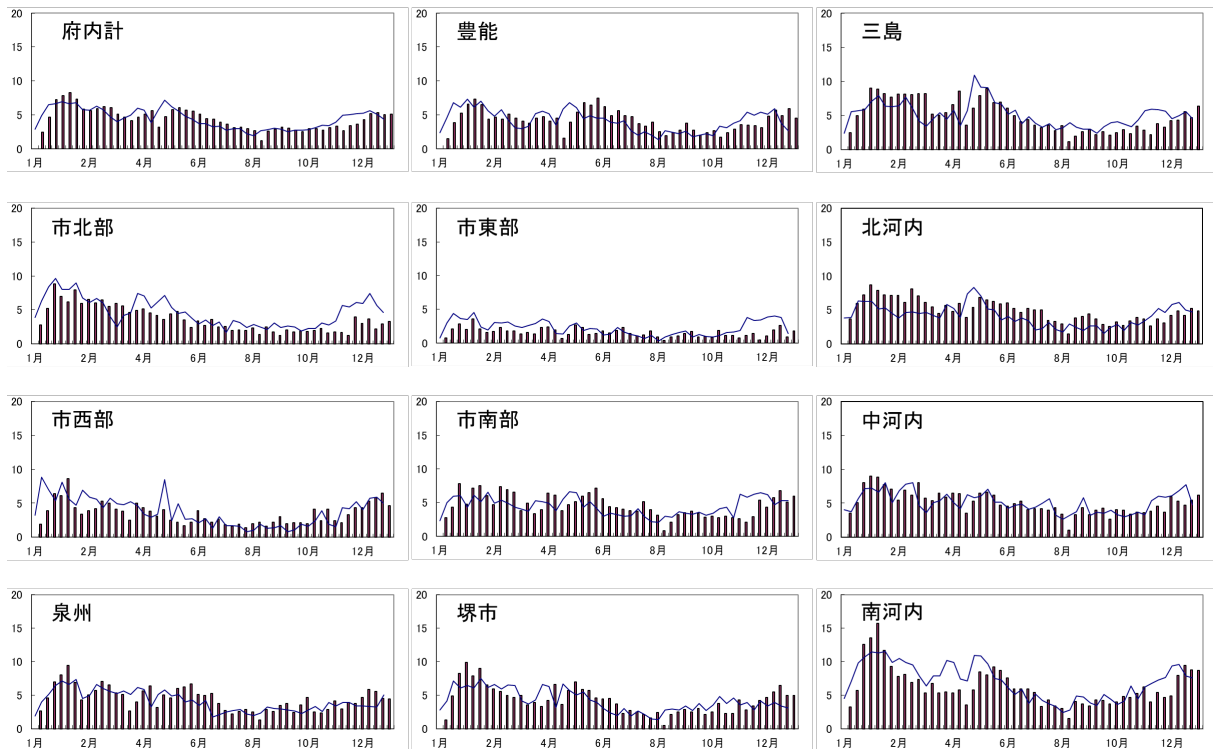
ウイルス検出は 131 検体のうち陽性だったのは 70 検体で、陽性率 53.4%であった。病原体別でみると、ノロウイルス 50 件（陽性検体の 71.4%、うちノロウイルス GII. 4 が 21 件）、サポウイルス 7 件（陽性検体の 10.0%）、ロタウイルス 7 件（陽性検体の 10.0%）、アストロウイルス 3 件（陽性検体の 4.3%）、アデノウイルス 3 件（陽性検体の 4.3%）であった。

（文責：大野）

感染性胃腸炎

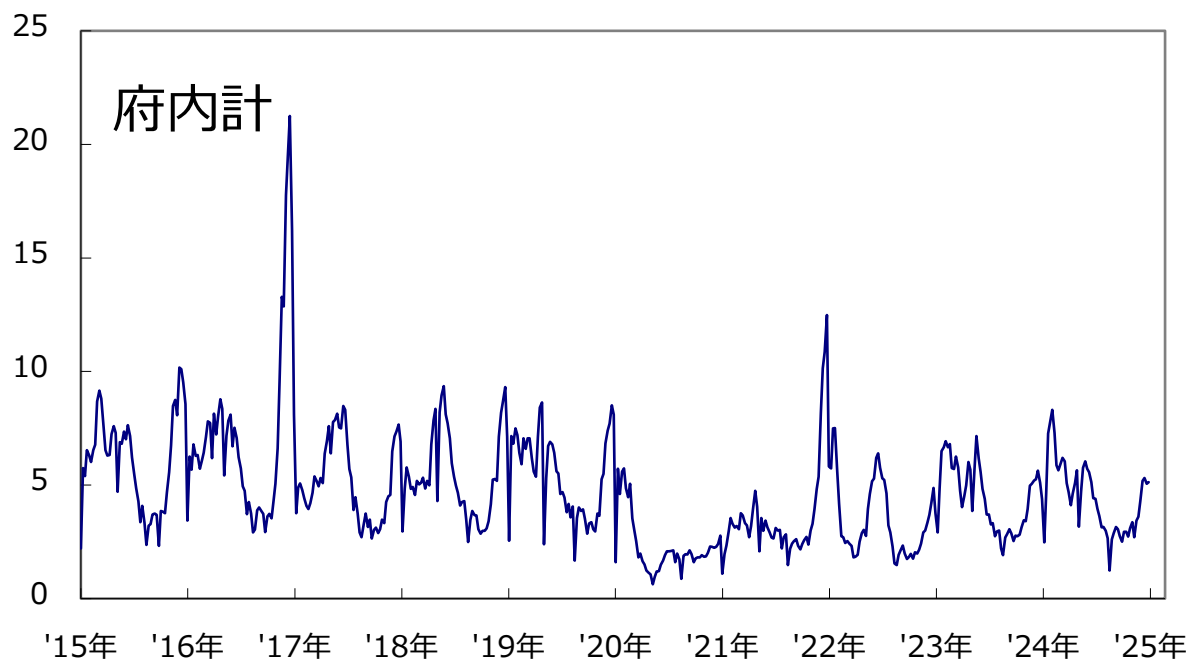
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



定点あたり感染性胃腸炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●水痘

2024 年の水痘の報告数は 1,707 例で、前年 1,017 例より 690 例、67.8%増加した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 1.3%を占め、第 8 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.17 で、前年 0.10 より 70.0%増加した。全国集計では報告数 28,330 例で前年 16,263 例より 12,067 例、74.2%増加した。総報告数の 1.3%を占め、定点あたり報告数は年平均 0.17 と前年 0.10 より 70.0%増加した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週の 0.15 から漸減し、年間最低値である第 14 週の 0.06 まで低下した。その後、増減を繰り返しながら漸増し 22 週に年間年間最高値 0.37 に増加した。その後、第 37 週の 0.11 に至るまで増減を繰り返しながら漸減した後、第 44 週の 0.11 までは 0.11 から 0.21 の範囲で増減した。第 45 週の 0.17 から再び増加傾向となり、50 週に 0.28 となりピークを形成した。

定点あたり報告数の月別平均値は、高い方から、5 月、12 月、7 月、6 月、11 月、1 月、8 月、10 月、9 月、3 月、4 月、2 月の順であった。新型コロナウイルス感染症流行以前に見られていたように、春に最も高いピークがあり、秋から冬にかけて漸増した二峰性の流行曲線を呈した。定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、いずれも前年よりも高値であり、2014 年 10 月に水痘ワクチンが小児の定期接種に導入されて以降大幅に減少してきたが、2023 年に続いて増加となった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、①豊能 0.25、④中河内 0.21、③北河内 0.20、⑤南河内 0.19、②三島 0.17・⑥堺市 0.17、⑦泉州 0.16、⑨大阪市西部 0.13、⑧大阪市北部 0.11、⑪大阪市南部 0.08、⑩大阪市東部 0.07 の順であった。

年齢別報告数（0～9 歳）は、多い方から、8 歳、7 歳、9 歳、6 歳、5 歳、1 歳、4 歳、3 歳、2 歳、0 歳の順であった。

0～4 歳の報告数および全体に占める割合は、403 例(23.6%)であった。5～9 歳の報告数は 840 例（前年 432 例）と増加し、全体の 49.2%（前年 42.5%）であった。10～14 歳の報告数は 401 例（前年 226 例）と増加し、割合は全体の 23.5%（前年 22.2%）であった。15 歳以上は 63 例（前年 51 例）と増加し、割合は全体の 3.7%（前年 5.0%）であった。

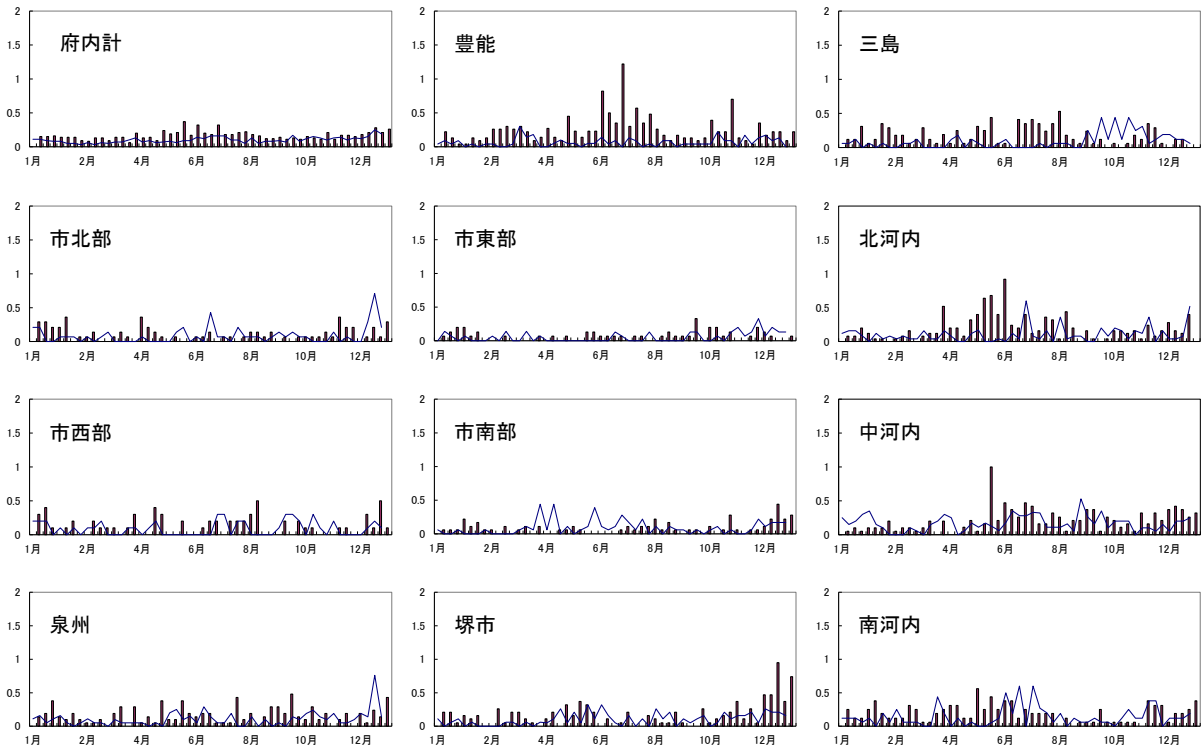
咽頭拭い液 3 検体中 1 件、皮膚拭い液 2 検体中 1 件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出され、鼻汁・鼻腔拭い液 1 検体からは検出されなかった。

（文責：康）

水痘

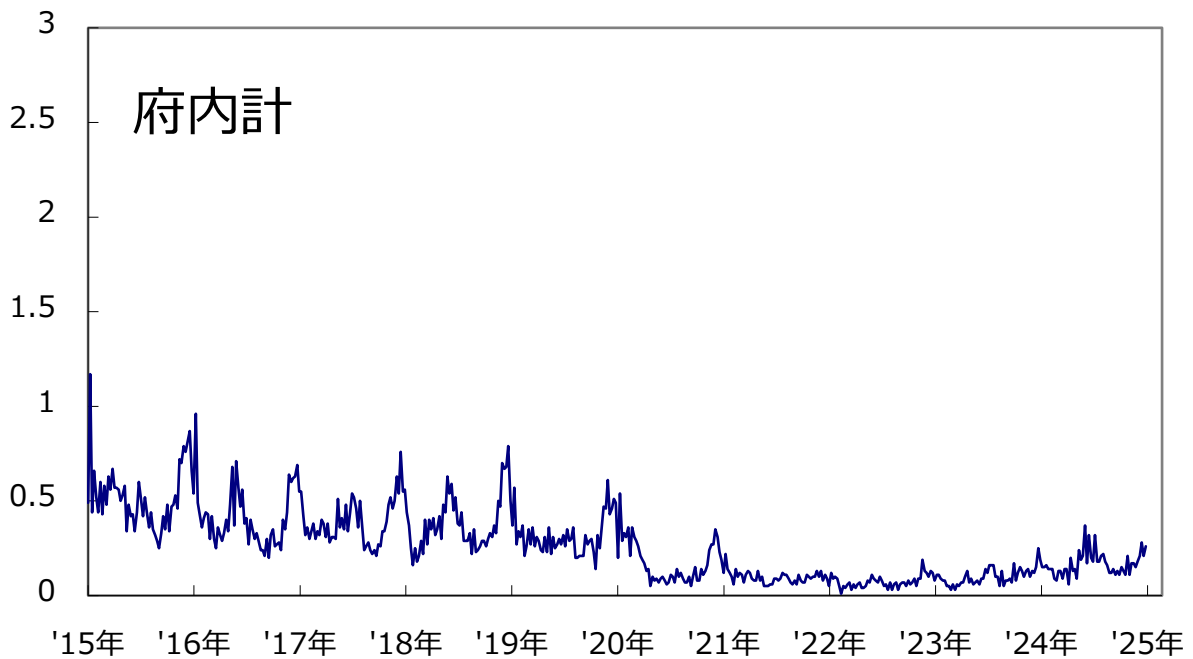
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



定点あたり水痘報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease : HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。主な病原ウイルスは、コクサッキーA16（CA16）、エンテロウイルス 71（EV71）であるとされてきたが、2009 年以降は患者由来ウイルスとしてコクサッキーA6（CA6）が検出されることが多くなってきている。

2024 年の手足口病の流行のピークは全国、大阪府共に第 28 週（7 月第 2 週）で、同週の定点あたり報告数の全国平均値は 13.36 と過去 10 年間（2014 年以降）では 2019 年（第 30 週 : 13.44）に次いで高く、大阪府は 9.93 と 2017 年（第 28 週 : 14.37）、2015 年（第 29 週 : 12.77）、2019 年（第 24 週 : 10.05）に次いで高い値であった。さらに 2024 年の流行は二峰性であり、第 29 週以降第 33 週まで減少が続いた後で再び増加傾向となり、第 41 週に 2 度目の流行のピーク（定点あたり報告数全国平均値 10.79、大阪府 6.45）を迎えた。

一方、2024 年の手足口病の定点あたり報告数が 1.0 を超えている期間は全国平均 31 週間、大阪府 34 週間と流行期間は長期間に渡っていたと考えられる。また、流行の規模を示す 2024 年の定点あたり累積報告数は全国平均値 211.85（総患者報告数 663,294）、大阪府 171.59（総患者報告数 33,632）といずれも 2004 年以降の過去 20 年間と比べても最多であった。

2024 年の国内における手足口病由来ウイルスの総検出数は 1,363 検体であり、CA6 が 577 検体（42.3%）、次いで CA16（513 検体、37.6%）、EV71（108 検体、7.9%）、CA10（54 検体、4.0%）の順であった。第 28 週をピークとした流行の第一峰時の流行の中心ウイルスは CA6 であり、第 41 週のピークとした第二峰時の流行の中心ウイルスは CA16 であった（図）。

2024 年の手足口病は CA6 と CA16 の主に 2 種類のウイルスによる二峰性の混合流行であり、どちらの流行もその規模が大きかったために、過去 20 年間と比較しても最大の流行となった。

2009 年以降 2019 年までは、CA6 による手足口病の比較的規模の大きな流行が隔年でみられていたが、新型コロナウイルスの流行開始以降 2023 年まではみられなくなっていた。CA16 を中心とした流行も、2019 年以降はある程度の規模の流行は見られていなかったことから、両ウイルスによる感受性者が年数を経て蓄積していたことが、2024 年の手足口病の大きな流行発生の一因となったのではと思われる。

（文責：安井）

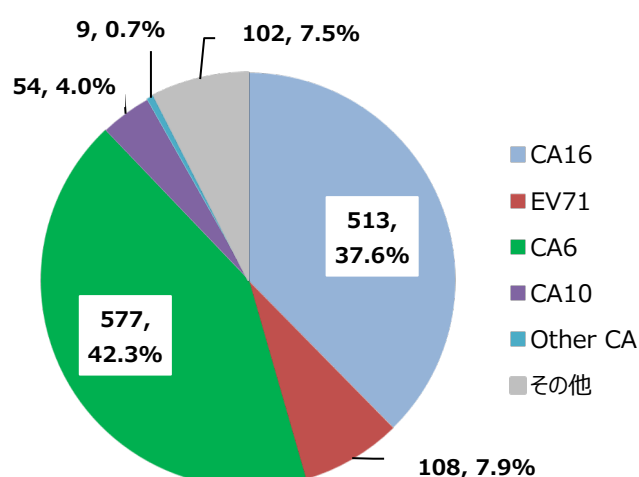
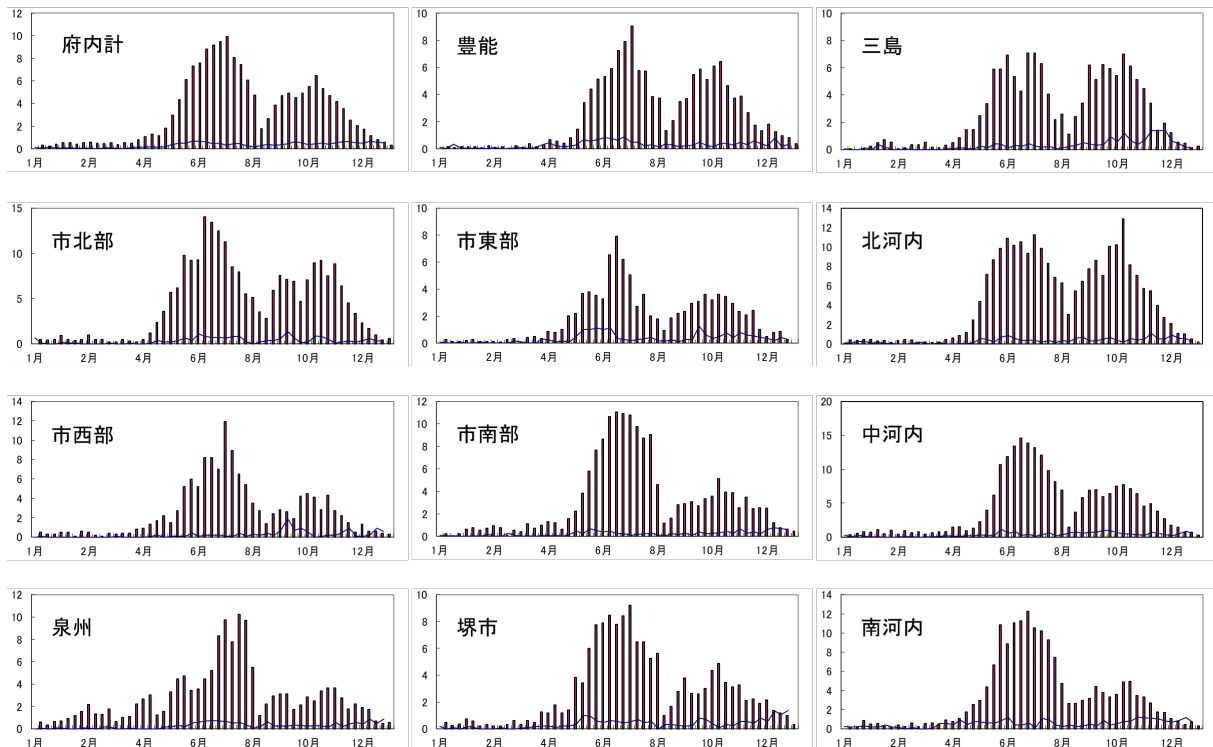


図 2024年手足口病患者由来ウイルス
検出状況（全国） 総検出数=1,363

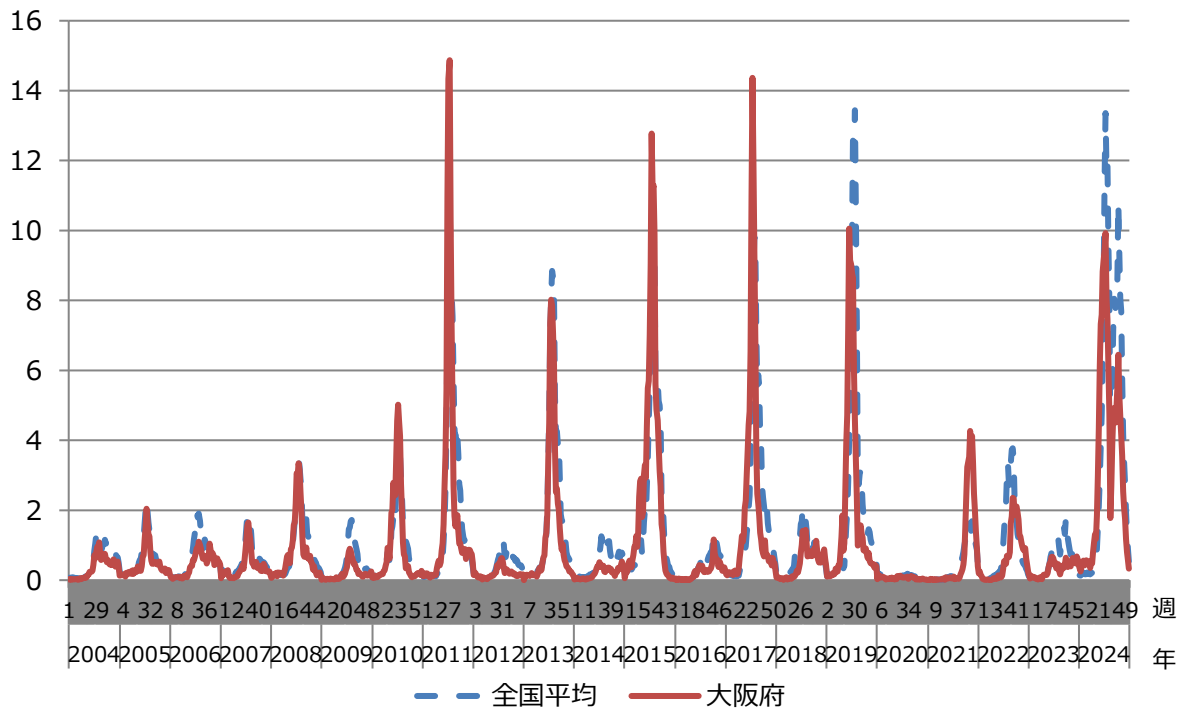
手足口病

線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移



2004～2024 年の手足口病定点あたり報告数週別推移（全国平均、大阪府）

●伝染性紅斑

2024 年の伝染性紅斑の報告数は 395 例で、前年の 95 例より 300 例、315.8%増加した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 0.3%を占め、第 11 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.04 で、前年 0.01 より 4 倍に増加した。全国集計では報告数 32,189 例で前年 2,220 例より約 15 倍に増加し、総報告数の 1.4%を占めた。定点あたり報告数は年平均 0.20 と前年 0.01 より 20 倍に増加した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週から第 23 週までは小刻みに増減し 0～0.04 で推移したが、その後漸増し 24 週から 37 週までは 0.01～0.05 で推移した。その後増減を繰り返しながら急増し 44 週には 0.13 でピークを形成し、47 週 0.05 まで低下するも再び増加し 50 週に年間最高値である 0.15 となった。その後 52 週 0.13 まで漸減した。

定点あたり報告数の月別平均値は、12 月、11 月、10 月、9 月、8 月、7 月、6 月、5 月、2 月、3 月、4 月、1 月の順で多く、秋から冬にかけて増加する傾向がみられた。

過去 10 年では、2011 年、2015 年、2019 年とおおよそ 4 年毎に比較的大規模な流行がおこっていた。2020 年以降は減少が続いていたが、本年の定点あたり報告数の年平均および年間最高値は 2020 年以降で初めて増加に転じ、2 番目に高値となった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、③北河内 0.08、②三島 0.06、③豊能 0.05、⑤南河内 0.04・④中河内 0.04、⑩大阪市東部 0.03、⑦泉州 0.02・⑧大阪市北部 0.02・⑪大阪市南部 0.02、⑥堺市 0.01、⑨大阪市西部 0.00 の順であった。

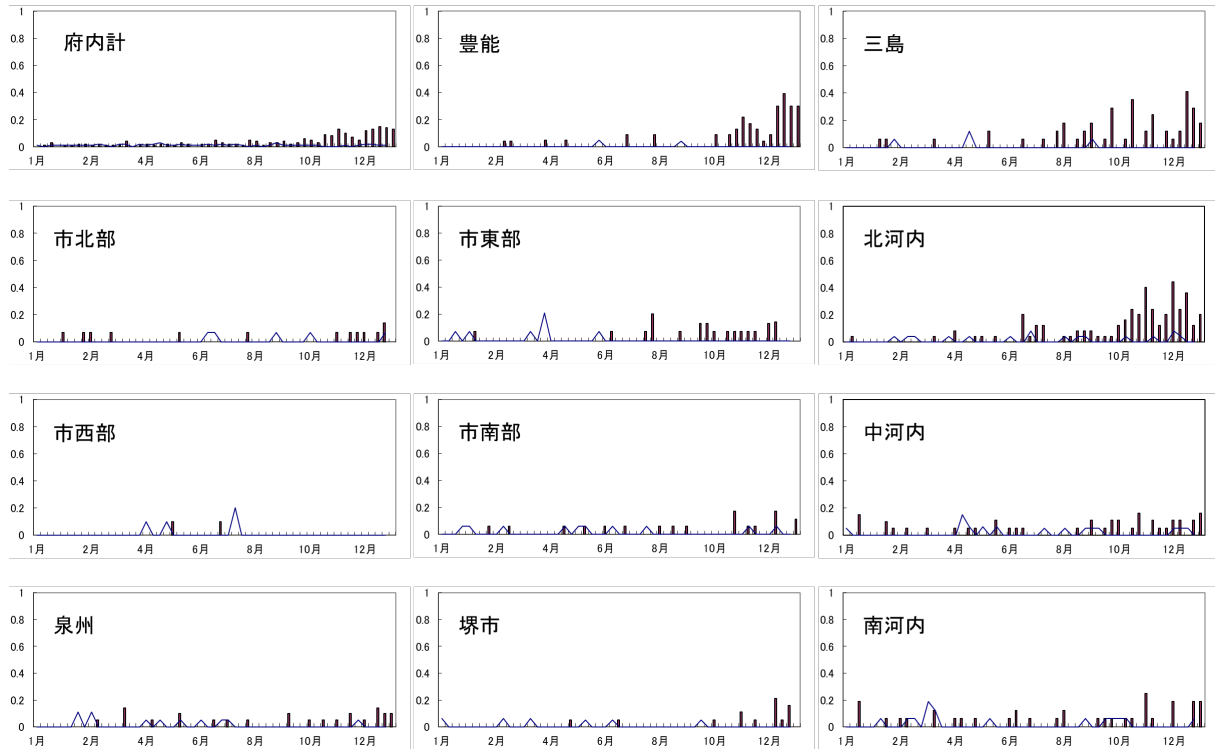
年齢別報告数（0～9 歳）は、4 歳、5 歳、3 歳、2 歳・6 歳、1 歳、8 歳、7 歳、9 歳、0 歳の順に多かった。0～4 歳の報告数は 197 例で全体の 49.9%を占めた。5～9 歳、10～14 歳、15 歳以上の報告数と割合はそれぞれ 171 例（43.3%）、22 例（5.6%）、5 例（1.3%）であった。

（文責：康）

伝染性紅斑

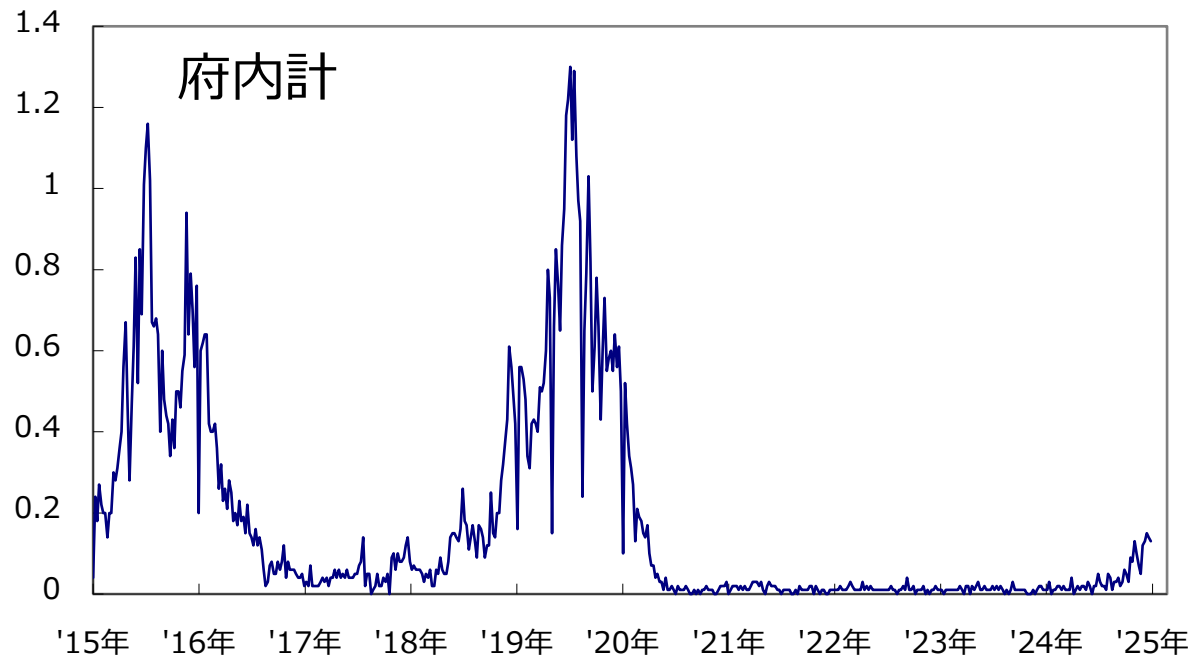
線（2023年第1週～第52週）

棒（2024年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015年1週～2024年52週）



定点あたり伝染性紅斑報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●突発性発しん

2024 年の突発性発しんの患者報告数は 2,243 例で、前年比 3.1%増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 1.7%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.22 で、順位は第 8 位であった。

全国集計では 41,260 例の報告で、前年比 1.1%増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 1.8%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.25 で、順位は第 8 位であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じてほぼ標準偏差内の変動で、1 月・2 月・3 月（第 1 週から第 13 週）が 1 標準偏差以上少なく、5 月・6 月（第 19 週から第 26 週）が 1 標準偏差以上多かった。年間最低値は第 1 週の 0.10 で、年間最高値は第 27 週の 0.32 であった。

全国集計でも、年間を通じてほぼ標準偏差内の変動で、1 月・2 月（第 1 週から第 9 週）が 1 標準偏差以上少なく、5 月・6 月（第 19 週から第 26 週）が 1 標準偏差以上多かった。年間最低値は第 1 週の 0.12 で、年間最高値は第 22 週・第 23 週・第 25 週の 0.34 であった。

本疾患は、季節性がなく、毎週の定点あたり報告数が一定しているといわれているが、大阪でも全国でも、1 月から 2 月に比べて 5 月から 6 月の方が報告数が多い傾向がみられた。

年齢別患者報告数は、1 歳の 1,261 例が最も多く、6 ヶ月以上 12 ヶ月未満が 511 例、6 ヶ月未満が 21 例、2 歳が 284 例であり、0 歳と 1 歳で全体の 79.9%、2 歳を含めると 92.6%を占めた。

ブロック別・年間患者報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（401 例）、③北河内（367 例）、①豊能（268 例）、⑤南河内（232 例）、⑦泉州（187 例）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数年平均の上位 5 ブロックは、④中河内（0.40）、③北河内（0.28）、⑤南河内（0.28）、⑧大阪市北部（0.24）、①豊能（0.23）、下位 6 ブロックは、⑩大阪市東部（0.13）、②三島（0.14）、⑪大阪市西部（0.14）、⑥堺市（0.16）、⑪大阪市南部（0.17）、⑦泉州（0.17）で、最上位と最下位では 2 標準偏差以上の差があった。

本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、例年上位と下位では差があり、定点医療機関における受診患者年齢に偏りがいないかなど検討が必要と考える。

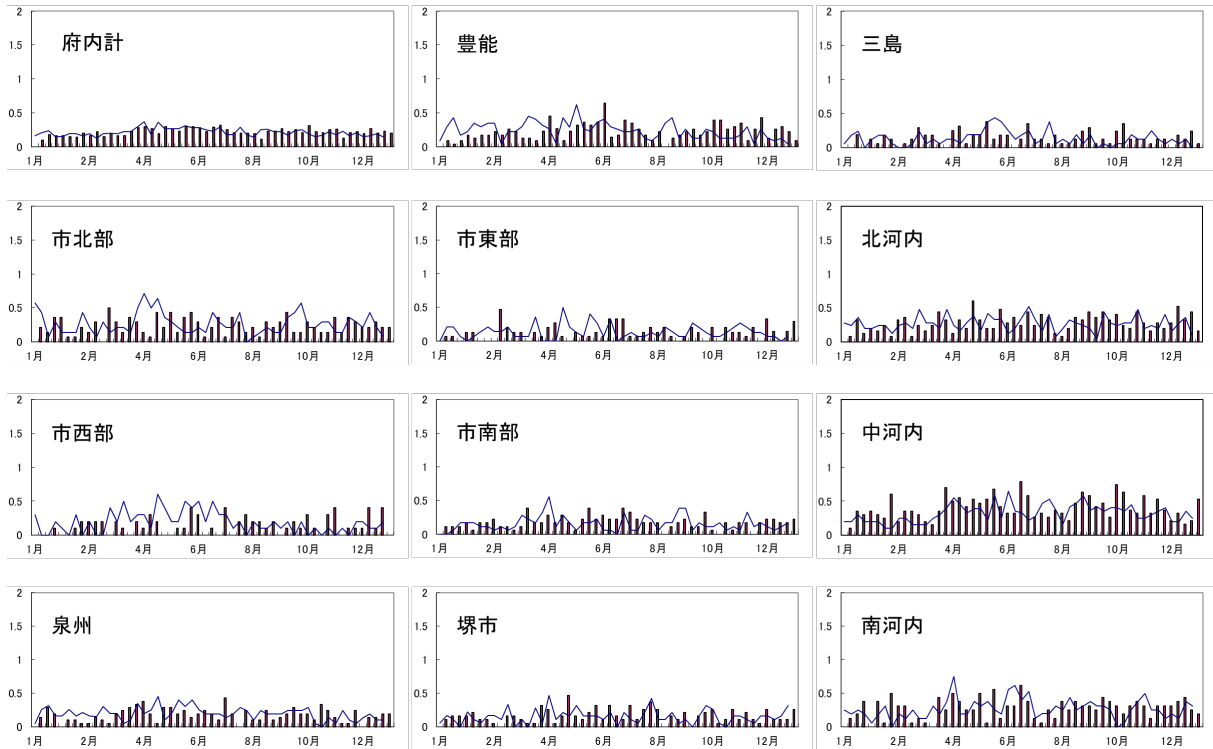
病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 13 検体あり、HHV6（型別不明）が 3 例、ヒトメタニューモが 2 例、アデノ 3 型・HHV7 が各 1 例検出されている。

（文責：富吉）

突発性発しん

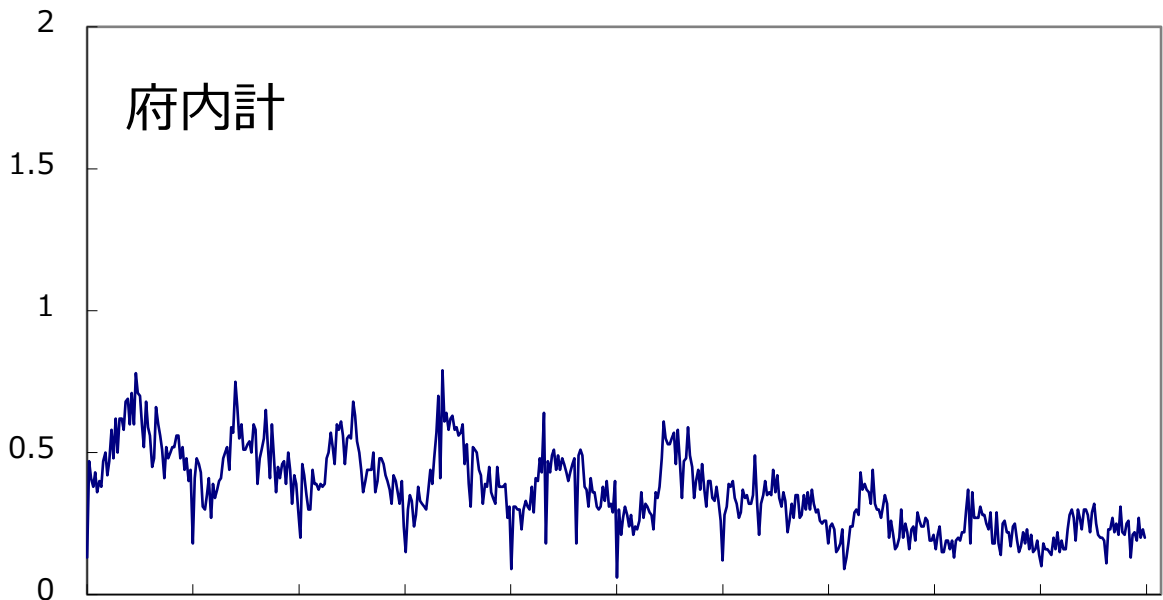
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



'15年 '16年 '17年 '18年 '19年 '20年 '21年 '22年 '23年 '24年 '25年

定点あたり突発性発しん報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●ヘルパンギーナ

本疾患は、大阪府では、6-7月ごろピークを迎える夏型感染症である。過去、2014年（9,704例）、2016年（8,563例）と隔年で報告数の増加が認められていたが、2017年以降、2017年（4,967例）、2018年（5,293例）、2019年（5,756例）と推移し、コロナ禍となった2020年以降は、新しい生活様式への変化（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）に伴い、2020年（1,554例）、2021年（2,517例）、2022年（1,988例）と低値で推移していた。ところが、2023年の報告数は、10,766例となり、7年ぶりに、報告数の増加が認められた。大阪府では、コクサッキーウイルスA10型、コクサッキーウイルスA2型、コクサッキーウイルスA4型が、多く検出されており、国立感染症研究所の病原体検出情報による、国内での検出ウイルスの種類と一致していた。

2024年は、3,787例で、前年比65.2%の減少であった。2024年は、大阪府における小児科定点当たり報告数の年平均は0.37で、順位は8位であった。日本全国における小児科定点当たり報告数の年平均は0.46で、順位は9位である。

大阪府の週別（月別）の定点あたり報告数の推移では、1月第1週（第1週）から4月第1週（第15週）まで0.01～0.10で推移していたが、7月第2週（第28週）に1.65と最高値に達した。2023年は、6月第3週（第25週）に7.69を記録していたが、2024年は、例年通りの水準であった。その後、減少に転じ、10月第2週（第42週）から、0.10を下回っている。全国的には、4月第5週（第18週）0.08を起点として増加し、7月第2週（第28週）に、2.42となり最大値に到達した。その後、減少に転じ、12月第4週（第52週）には0.02まで減少した。

大阪府において、年齢別患者発生数では、多い順に、1歳 880例（23.2%）、2歳 697例（18.4%）、3歳 555例（14.7%）、4歳 433例（11.4%）、1歳未満 375例（9.9%）の順であった。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは、高い順に、⑧大阪市北部 0.88、④中河内 0.58、⑤南河内 0.47、③北河内 0.44、⑨大阪市西部 0.38であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数が高かった上位5ブロックは、⑧大阪市北部 5.71（6月第4週 第26週）、⑤南河内 2.94（7月第4週 第30週）、④中河内 2.68（7月第3週 第29週）、③北河内 2.64（7月第2週 第28週）、⑨大阪市西部 2.00（7月第3週 第29週）の順で、警報レベル開始基準値 6.00を上回っているブロックはなかった。

病原体検出は、多い順に、ヒトメタニューモウイルス（3）、コクサッキーウイルスA6型（1）、コクサッキーウイルスA10型（1）、エコーウイルス（1）、エンテロウイルスA71型（1）、エンテロウイルスD68型（1）、ライノウイルス 型不明（1）が検出された。昨年よりも、検出数が少なく、2024年は、コクサッキーウイルスA2型やコクサッキーウイルスA4型が検出されなかった。

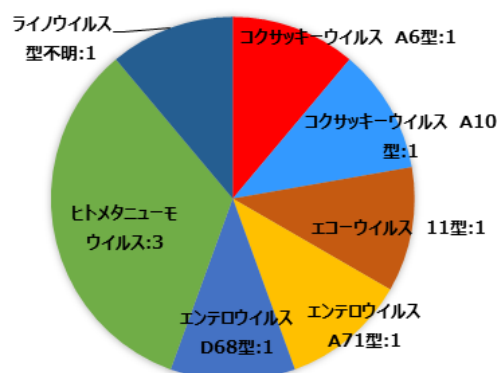


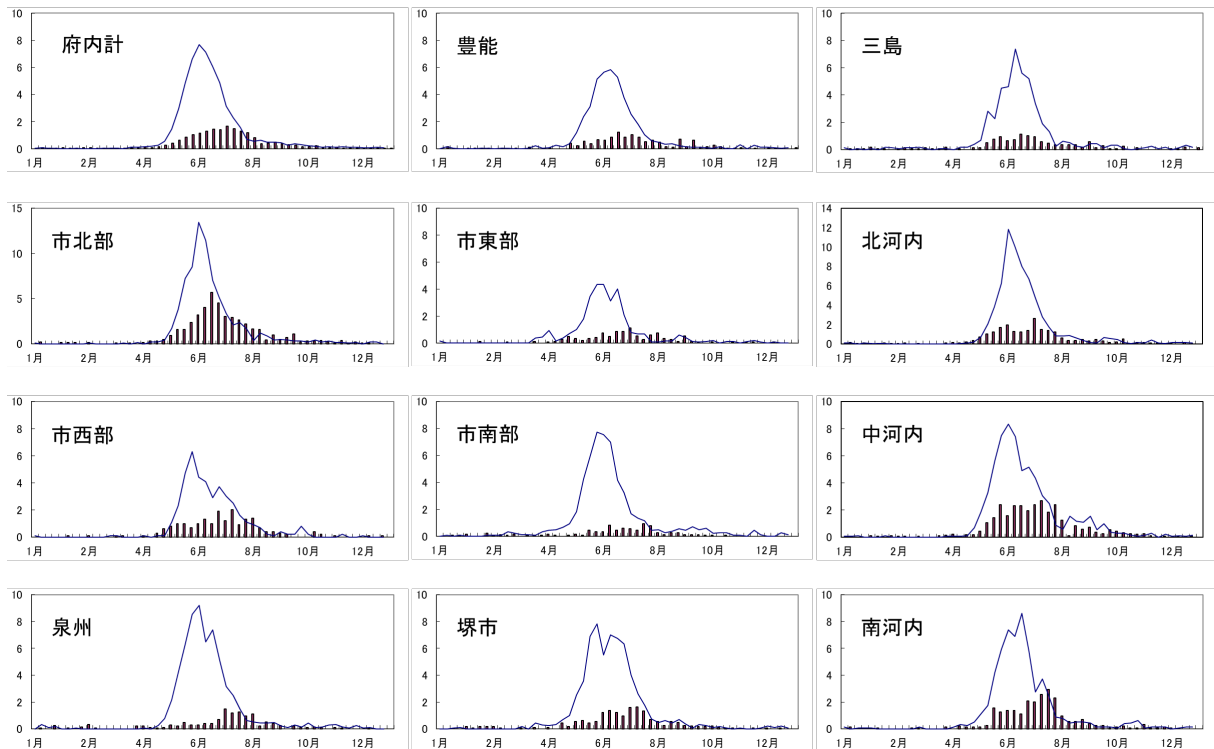
図 大阪府のヘルパンギーナ患者由来ウイルスの検出状況（2024年、総検出数(9)）

（文責：本村）

ヘルパンギーナ

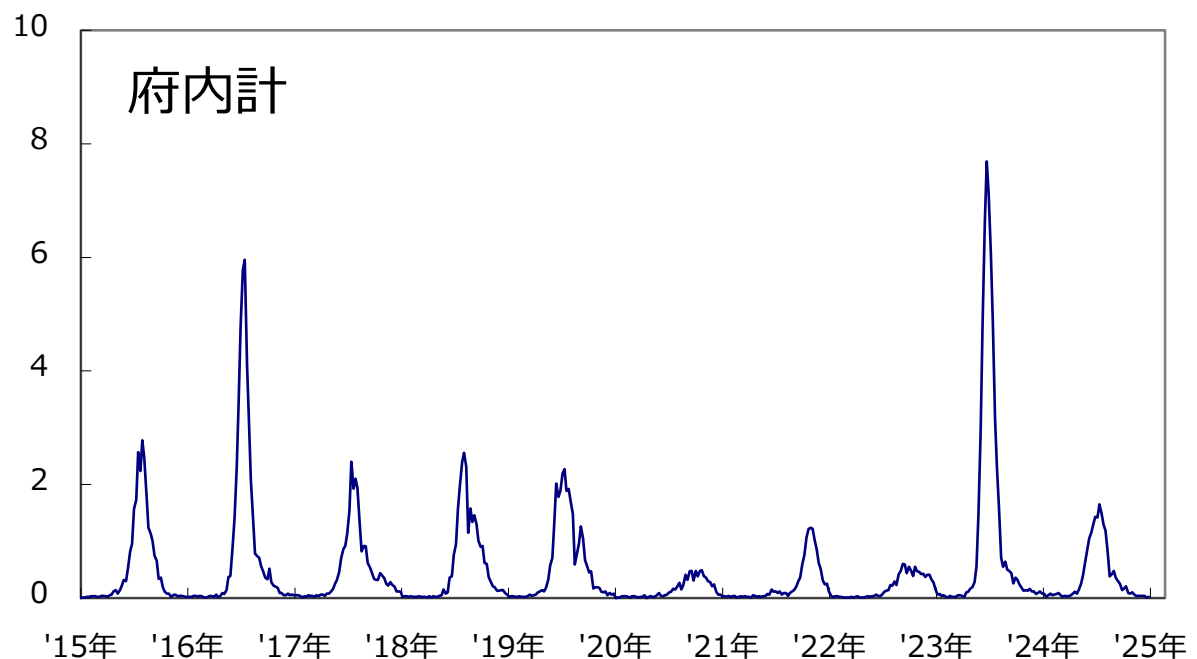
線（2023年第1週～第52週）

棒（2024年第1週～第52週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015年1週～2024年52週）



定点あたりヘルパンギーナ報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●流行性耳下腺炎

2024 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 429 例で、前年比 16.0%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.04 で、順位は第 10 位であった。過去 10 年間で最も大きな流行となった 2016（平成 28）年の 1.39 から減少が続き、2019 年以降は 0.1 未満となっている。

全国集計では 6,415 例の報告で、前年比 6.6%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.04 で、順位は第 11 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 23 週（6 月）の 0.12、年間最低値は第 13 週（3 月）と第 40 週（9 月）の 0.01 であった。全国集計でも、年間を通じて 0.01 から 0.07 で経過した。

年齢別患者報告数は、5 歳の 69 例が最も多く、以下 10 歳から 14 歳 57 例、8 歳 56 例、4 歳 54 例、6 歳 48 例、7 歳 38 例、9 歳 35 例、3 歳 33 例と続き、3 歳から 8 歳で全体の 69.5%を占めた。

ブロック別・週別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（75 例）、④中河内（67 例）、⑤南河内（57 例）、①豊能（38 例）、⑦泉州（38 例）の順であった。

ブロック別・定点あたり報告数年平均の上位 6 ブロックは、④中河内（0.07）、⑤南河内（0.07）、③北河内（0.06）、⑧大阪市北部（0.05）、⑨大阪市西部（0.05）順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部（第 30 週、0.57）、④中河内（第 27 週、0.32）、④中河内（第 24 週、0.32）、⑤南河内（第 23 週、0.31）、⑤南河内（第 22 週、0.25）、⑤南河内（第 26 週、0.25）、⑤南河内（第 27 週、0.25）の順であった。

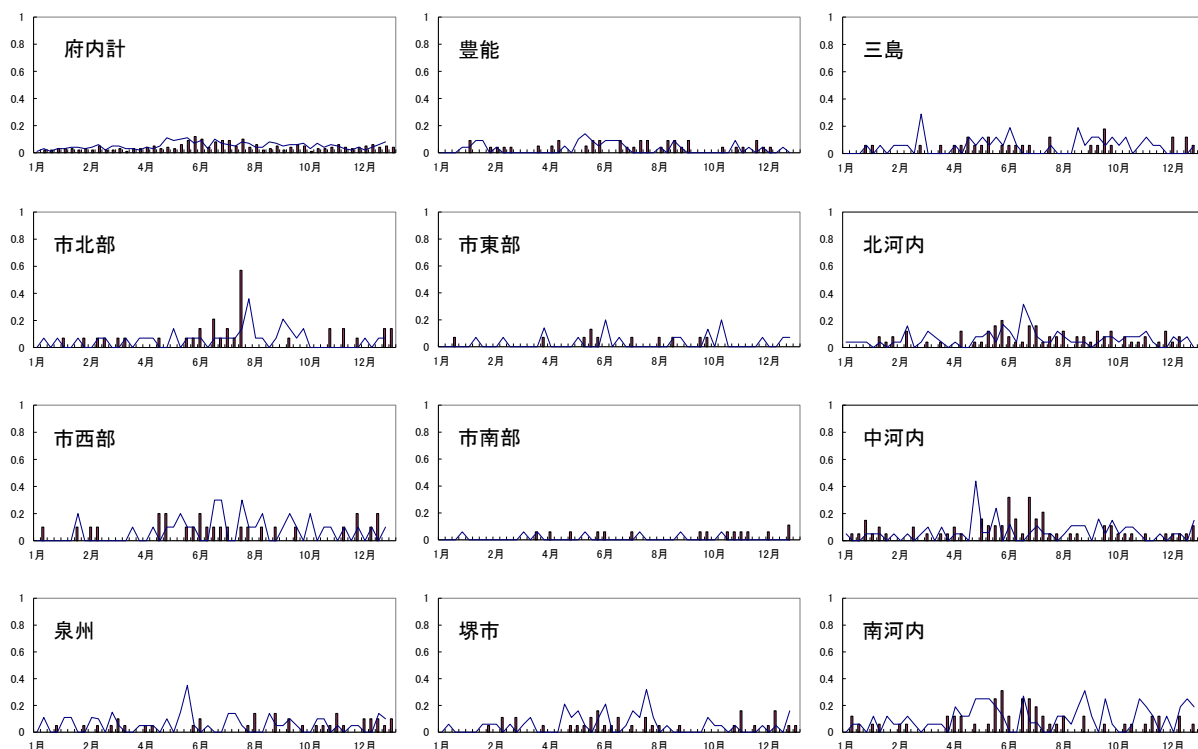
病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 4 検体あったが、陽性検体はなかった。

（文責：富吉）

流行性耳下腺炎

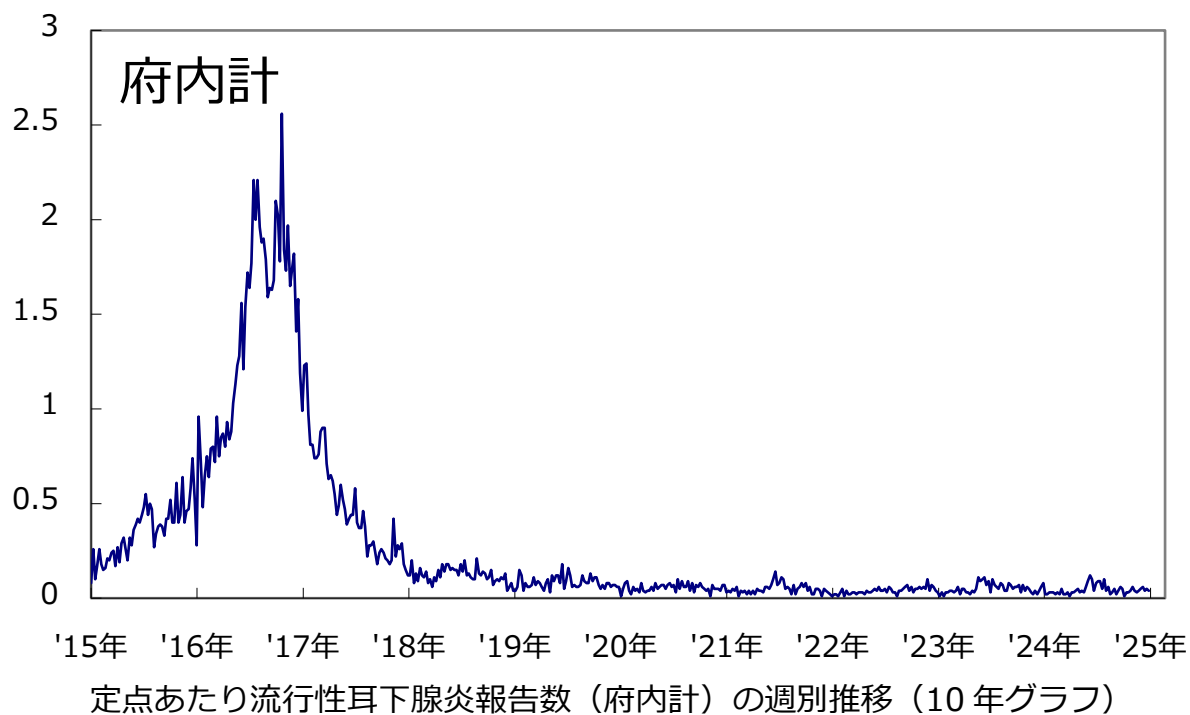
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



3) 眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2024 年（令和 6 年）の急性出血性結膜炎の報告数は 44 例で、前年の 69.2%増しとなり、眼科医療機関における定点あたりの報告数は 0.02 であった。

府内合計による週別定点あたり報告数は最高が第 50 週の 0.15 で、以下第 43 週の 0.08、第 51 週の 0.06 が続いた。報告の無い週が 25 週あった。

ブロック別の年間平均で週別定点あたり報告数が高かったのは、北河内の 0.06 で以下、豊能の 0.03、泉州の 0.02 であった。三島と大阪市南部のブロックからは報告が無かった。

年齢別では、流行性角結膜炎と同様に成人の報告が多く、20 歳以上の報告数が 35 例と、全体の 79.5%を占めた。

本年の大阪府内の定点あたりの報告数は全国集計と同じであった。

最近 7 年間の眼科医療機関における定点あたりの急性出血性結膜炎報告数

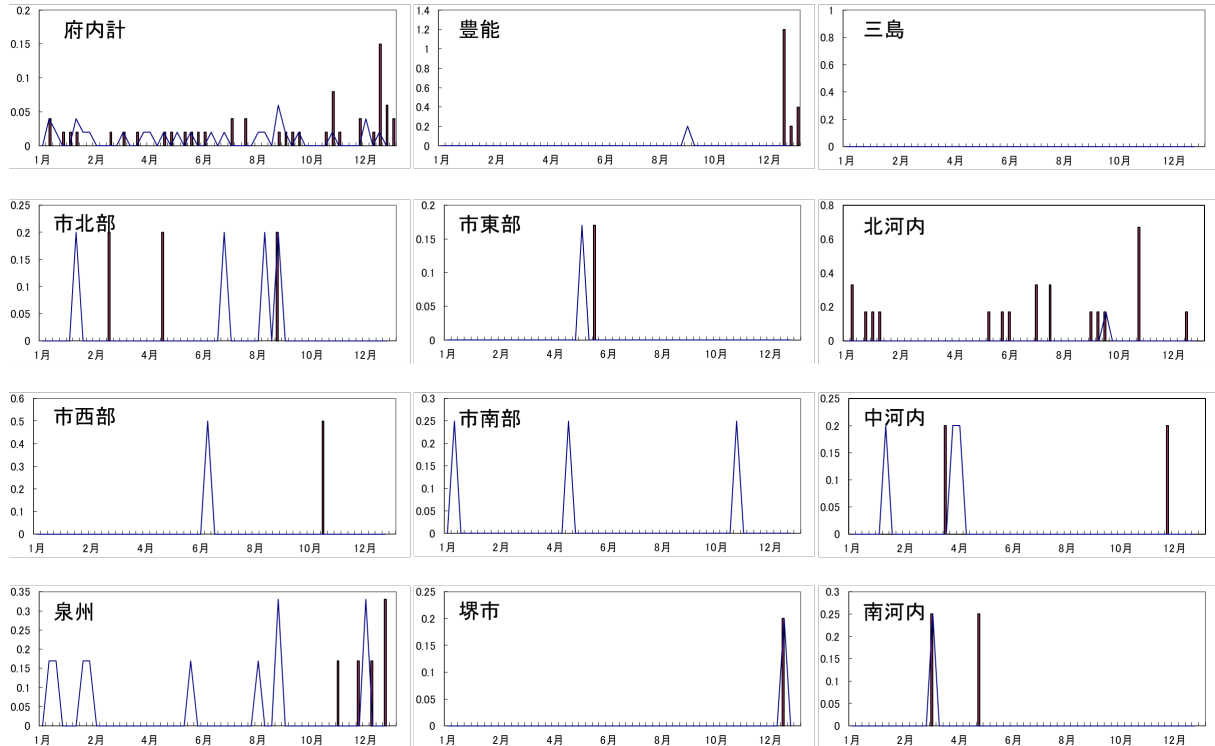
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
大阪府	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.02
全 国	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.02

（文責 宮浦）

急性出血性結膜炎

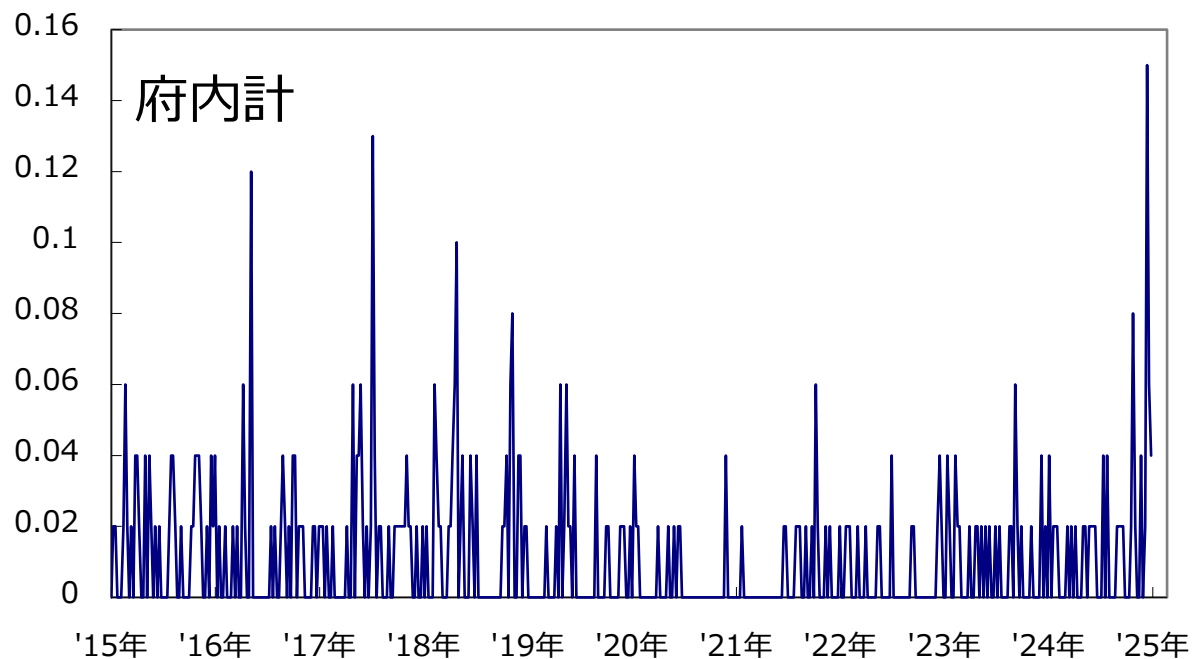
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



定点あたり急性出血性結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●流行性角結膜炎

2024 年（令和 6 年）の流行性角結膜炎の報告数は 916 例で、前年の 8.7%減となり、眼科医療機関における定点あたり報告数は 0.34 であった。

府内合計による週別定点あたりの報告数で最も多かったのは、第 15 週と第 23 週の 0.65 で、以下第 17 週の 0.63、第 21 週の 0.60 が続いた。前年同様に定点あたりの報告数が 1.0 を超えた週はなかった。月別発生件数については、4 月（第 14 週から第 18 週までの 5 週）が年間の 14.0%と最も多く、次いで 5 月（第 19 週から第 22 週までの 4 週）の 11.0%、6 月（第 22 週から第 26 週の 5 週間）と、12 月（第 49 週から第 52 週の 4 週間）の 9.1%の報告数があった。本疾患は夏型感染症とされているが、本年は春の報告が多かった。

ブロック別で週別定点あたり報告数が最も多かったのは堺市の第 41 週、大阪市西部の第 12 週、大阪市南部の第 22 週の 2.00 で、次いで豊能の第 16 週、三島の第 15 週、大阪市南部の第 17 週の 1.75、さらに北河内の第 2 週、南河内の第 19 週、大阪市南部の第 15 週の 1.50 が続いた。

ブロック別の年間平均で週別定点あたり報告数が最も多かったのは南河内の 0.45 で、次いで大阪市東部の 0.43、豊能の 0.41 の順であった。最も低かったのは大阪市北部の 0.23 であった。

年齢別では、例年 20 歳以上の報告数が多く、本年も 684 例と全体の 74.7%を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

最近 7 年間の眼科医療機関における定点あたりの流行性角結膜炎報告数

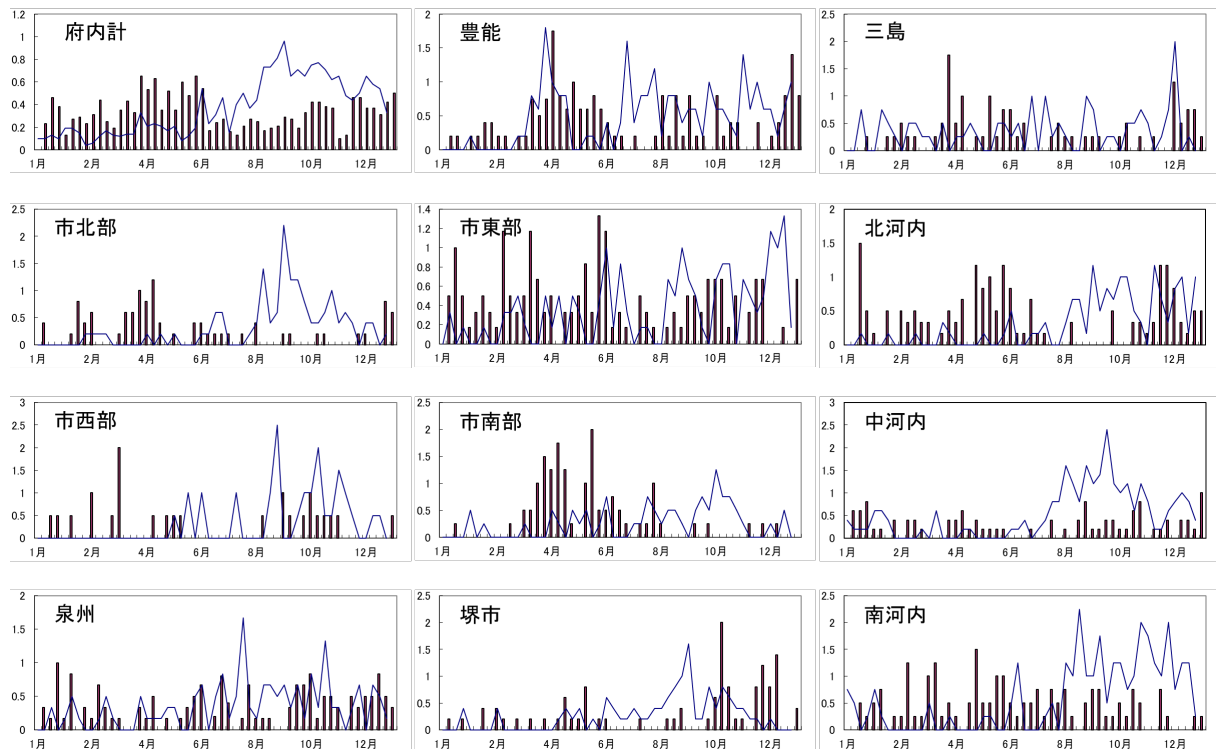
	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
大阪府	0.48	0.32	0.13	0.10	0.12	0.37	0.34
全 国	0.85	0.64	0.25	0.19	0.18	0.50	0.56

（文責 宮浦）

流行性角結膜炎

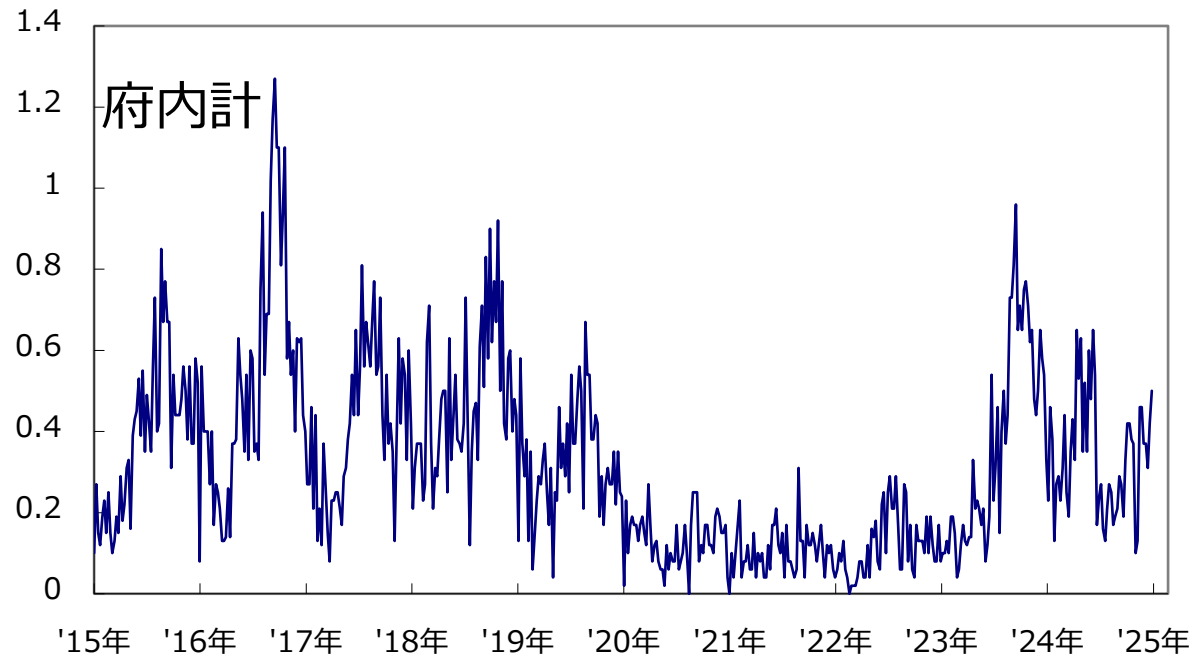
線（2023 年第 1 週～第 52 週）

棒（2024 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2015 年 1 週～2024 年 52 週）



定点あたり流行性角結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

4) 基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5類感染症の中の細菌性髄膜炎（2013年4月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2014年9月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、及び、2013年10月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の5疾患である。

表 基幹病院定点報告（週報）対象疾患のブロック別報告数および定点あたり報告数

ブロック	(年)	(1) 豊能	(2) 三島	(3) 北河内	(4) 中河内	(5) 南河内	(6) 堺	(7) 泉州	大阪市	合計	定点あたり 累積 大阪	定点あたり 累積 全国	定点数 (大阪)
細菌性髄膜炎	2019年	2	7			1		8		18	1.10	1.00	16
	2020年	1	2	2			4		1	10	0.61	0.85	16
	2021年		4				5		1	10	0.61	0.77	16
	2022年		3	1					1	5	0.31	0.64	16
	2023年		6	1			2			9	0.53	0.85	17
	2024年		12		18	20	2	2	5	42	2.33	1.09	18

無菌性髄膜炎	2019年	7	1		2		20	1		31	1.90	1.69	16
	2020年	5	3			1	5		1	15	0.92	0.95	16
	2021年	4			2	4	6			16	0.98	0.96	16
	2022年	2	3			2	8		1	16	0.98	0.90	16
	2023年	2	3		1	3	11		4	24	1.41	1.48	17
	2024年	5	7	5	14	2	8		2	43	2.39	1.63	18

マイコプラズマ 肺炎	2019年	6	24	30	13	2	31	10	13	129	7.91	12.67	16
	2020年	14	20	12	6	1	24	1	15	93	5.71	7.36	16
	2021年	1			2		1		1	5	0.31	1.39	16
	2022年	2						1		3	0.18	0.82	16
	2023年	1	2			3	14	1	9	30	1.76	2.24	17
	2024年	137	178	137	109	196	351	187	335	1630	90.56	46.57	18

II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）

クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2019 年	1					1			1	0.06	0.20	16
	2020 年									1	0.06	0.12	16
	2021 年										0.00	0.05	16
	2022 年										0.00	0.07	16
	2023 年										0.00	0.05	17
	2024 年			1	12			2		15	0.83	0.15	18

感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	2019 年	52	48	9	20	49	55	85	64	382	23.88	9.80	16
	2020 年	0	1	0	0	1	4	0	0	6	0.37	0.52	16
	2021 年	1	1	0	0	0	0	0	3	5	0.31	0.19	16
	2022 年	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0.18	0.21	16
	2023 年			0	0	6	3	0	1	10	0.59	0.32	17
	2024 年	1	2	5	1	9	10	2	19	49	2.72	0.70	18

表には 2019 年～2024 年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は 18 である。1999 年の事業開始時から基幹定点間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。また、2020 年以後は新型コロナウイルス感染症の流行のため、感染症の疫学に大きな影響がみられている。

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎

（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

2024 年は 42 例が報告され、定点あたり 2.33、2023 年は 9 例で定点あたり 0.53 であった。9 基幹定点から各々 18 例(この基幹定点の症例では検出細菌の記載例はなかった)、11 例、3 例、2 例(4 基幹定点)、1 例(2 基幹定点)が報告された。年齢は 0 歳 3 例、1～4 歳 2 例、5～9 歳 4 例、10～19 歳 5 例、20～29 歳 1 例、30～39 歳 2 例、40～49 歳 2 例、50～59 歳 4 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 12 例、80～89 歳 5 例で、男女比は 22:20、月別には 7 月 7 例、8 月 7 例、2 月 6 例、4 月 5 例が多かった。原因菌は肺炎マイコプラズマ 3 例(すべて髄液以外の検査で陽性)、リステリア菌 *Listeria monocytogenes* 2 例、B 群レンサ球菌 *Streptococcus agalactiae* 2 例、黄色ブドウ球菌、大腸菌、肺炎桿菌、*Klebsiella*(*Enterobacter*) *aerogenes*、肺炎球菌が各 1 例で、30 例では細菌は検出されなかった。原因菌の検査方法はリステリアは核酸検出、他の多くは培養検査であった。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ

菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は5類全数報告を参照されたい。肺炎マイコプラズマを細菌性髄膜炎とすべきか、議論があろう。

全国集計では2024年は523例の報告があり、定点あたり1.09、2023年は定点あたり0.85であった。原因菌には肺炎マイコプラズマ8.6%、B群レンサ球菌7.8%、黄色ブドウ球菌5.3%、肺炎球菌3.1%、リステリア菌2.9%、大腸菌2.7%、肺炎桿菌2.1%などが多い。原因菌不明やウイルス記載例などが52.4%であった。髄液の微生物のマルチプレックス遺伝子検査を導入するなど、原因菌検索の改善が必要である。

●無菌性髄膜炎

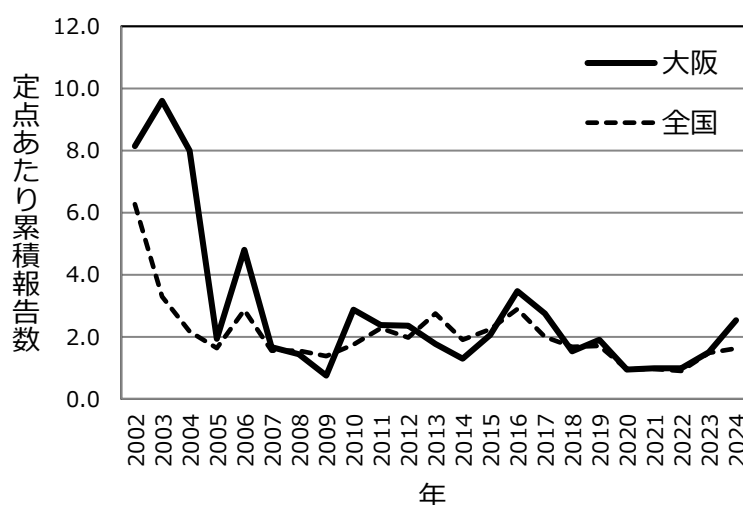
2024年は9基幹定点から基幹定点別の報告数は12例、7例(2基幹定点)、5例(2基幹定点)、など、合計43例が報告され、定点あたり2.39で2023年は24例、定点あたり1.41であった。年齢は0歳8例、1～4歳3例、5～9歳5例、10～19歳5例、20～29歳1例、30～39歳4例、40～49歳4例、50～59歳3例、60～69歳2例、70～79歳5例、80～89歳3例で、性別は男女が25:18であった。8月8例、7月6例、6月と12月各5例が多かった。

原因病原体はエンテロウイルス(型不明)4例、ヒトヘルペスウイルス6型、肺炎マイコプラズマ各1例、陰性・記載なし37例であった。

一方、本報告書のウイルス検査結果では無菌性髄膜炎70症例の髄液からライノウイルスC型1例のみ検出され、便・咽頭などからのべ9株が検出され、エコーウイルス9型3例、ライノウイルスC型4例などであった。

全国集計では2024年は786例定点あたり1.63、2023年は定点あたり1.48であった。原因病原体はVZV16.3%、エンテロウイルス型不明など15.0%、HSV1 1.5%、HSV2 2.5%、HSV6型 2.3%などである。国立感染症研究所のIASRのデータをみると2024年の無菌性髄膜炎189例からCB5が27.3%、エコーウイルス11型18.5%、コクサッキーウイルスB3 7.9%、コクサッキーウイルスA16 5.8%、などが検出されている。

図 無菌性髄膜炎年別基幹定点あたり累積報告数



●マイコプラズマ肺炎

1,630 例の報告があり定点あたり 90.56 で、2011 年の 96.13 に次ぐ大きな流行で、2023 年の 1.76 から大幅に増加した。年齢分布は 0～4 歳 18.6%、5～9 歳 38.4%、10～14 歳 28.0%、15～19 歳 6.1%、20 歳以上 9.0%であった。週別では第 25 週から報告数が 30 を超え、第 32 週の 77 をピークに、第 51 週まで 30 を超えていた。月別には 8 月 16.4%、7 月 16.1%、9 月 15.2%と多く、1～5 月は各月 5%未満と少なかった。本疾患は流行年では 7 月頃から増加し、年明けに減少する傾向がある。大阪では本疾患は 2006 年、2011 年、2016 年をピークとする流行を繰り返しており、2020 年は増加することが予測されていたが、2020 年は新型コロナウイルス感染症下の感染症対策の影響か、本感染症は減少し、2023 年秋からごくわずかに増加を見たが、2024 年は 8 年ぶりの流行で、2011 年に匹敵する大きな流行となった。

検査材料は鼻腔よりも咽頭ぬぐい液の検出率が高いとされるが、診断方法は核酸検出（PCR・LAMP 等）54.0%、抗原検出 33.3%、抗体検出 12.1%であった。

因みに、大阪市内の本事業の定点ではない A 病院小児科では抗菌薬服用前の患者検体について川崎医大小児科でマクロライド耐性率を検査したところ、2025 年 5 月～8 月の 34 例中 19 例 55.9%が耐性であった。

全国集計では 2024 年は定点あたり 46.57 で、2023 年の 2.24 の 19.8 倍であった。

図 マイコプラズマ肺炎年齢別報告数（大阪府）

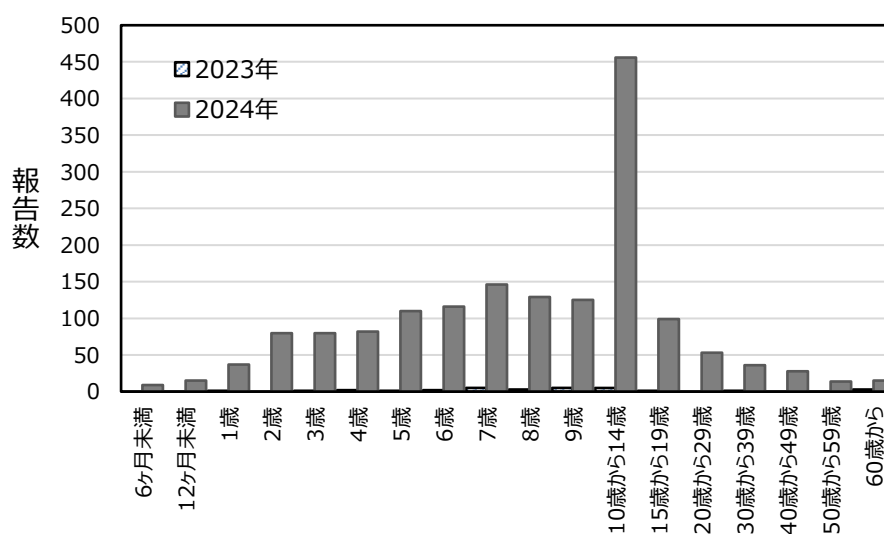


図 マイコプラズマ肺炎週別報告数

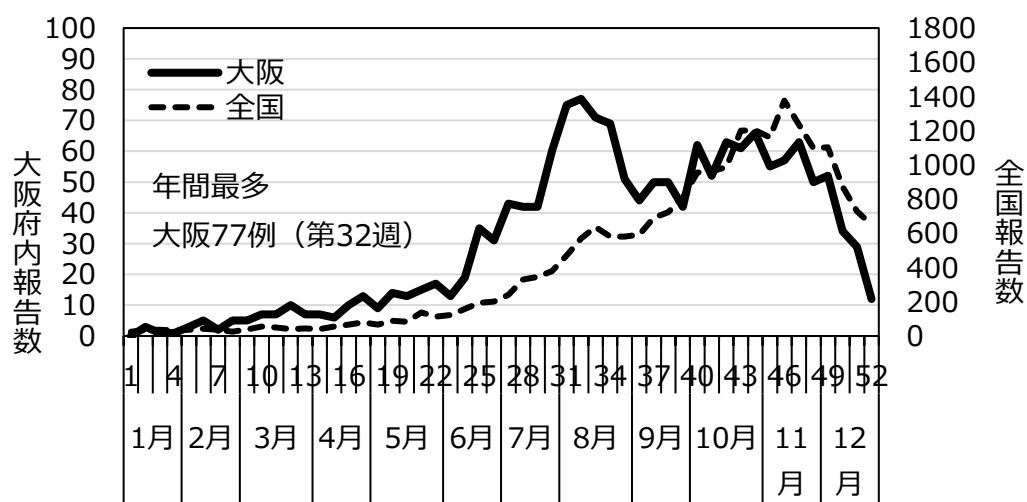
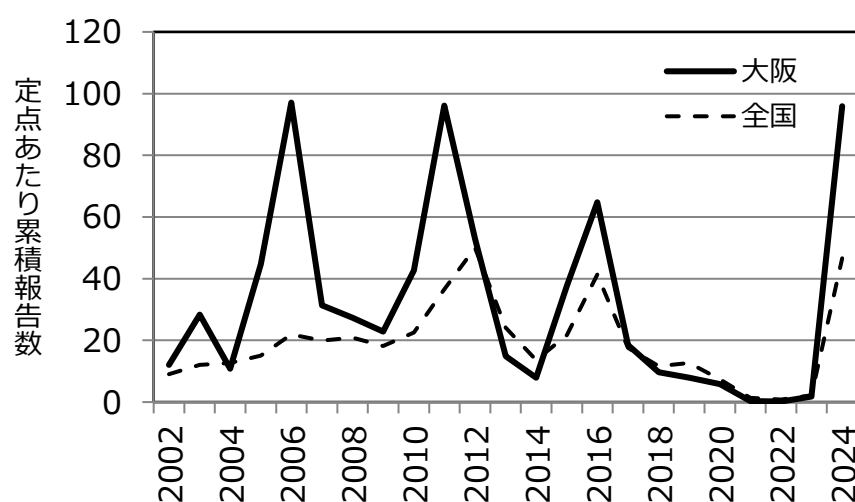


図 マイコプラズマ肺炎年別基幹定点あたり累積報告数



●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチス (*Chlamydia trachomatis*) による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア (*Chlamydophila (Chlamydia) pneumoniae*) による肺炎が含まれる。オウム病 (*Chlamydophila (Chlamydia) psittaci*) は4類全数報告感染症である。

2021年以後は報告がなかったが、2024年は15例の報告があった。しかし、2例は遺伝子検査で肺炎マイコプラズマのみの検出であり、これを除く13例、定点あたり0.72についてみ

ると、全例が抗体検査で診断され、12例は1基幹定点からの報告で、年齢は17歳の1例以外は40歳以上で、69%は70歳以上であった。上述のA病院小児科 Filmarray®呼吸器パネル検査では2021年以後、2022年の1例のみの検出であったが、2024年は1224例中9例(0.7%、4人は家族内症例)検出され、年齢は0～11歳であった。

全国集計では定点あたり0.15の報告であった。

新型コロナウイルス感染症の流行後に、マルチプレックス RTPCR 法による Filmarray®など多種類の呼吸器感染症のウイルス、細菌の核酸検出が可能な診断機器の普及がすすんでおり、抗体価による方法よりも正確な診断が期待できる。

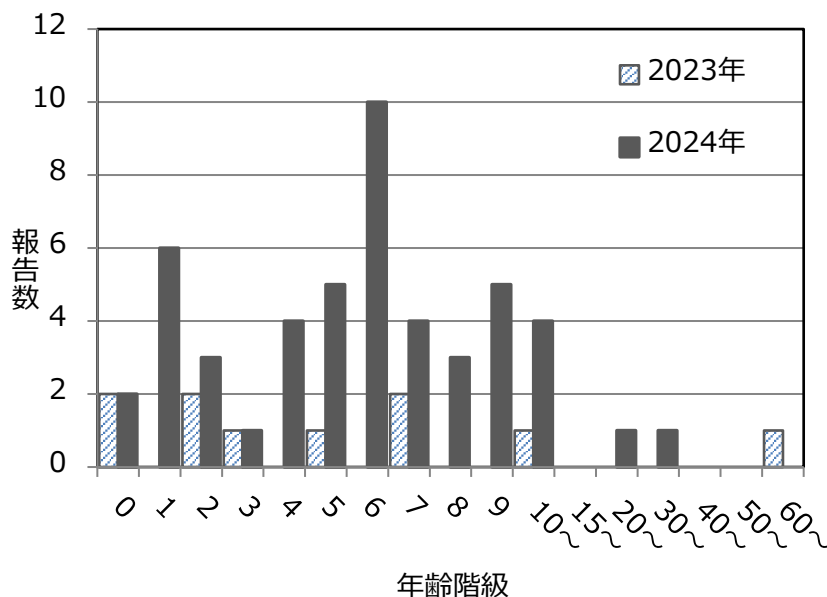
●感染性胃腸炎

（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

2011～2012年に認可され、2020年10月から定期接種となった2種類のロタウイルスワクチンで感染症例は激減、さらに、COVID-19パンデミックの影響とおもわれる減少がみられていた。2024年49例の報告で、定点あたり2.72で、2023年の4.6倍であった。年齢分布は0～4歳32.7%、5～9歳55.1%、10～14歳8.2%で、月別には6月22.4%と多く、3～8月で81.6%を占めた。5基幹定点から全体の83.7%の報告があった。全国では定点当たり0.70と少数の報告であった。本調査はワクチン任意接種の開始後の2013年途中から始まり、2014年～2019年の報告数は定点あたり13.5、17.2、23.9、14.8、14.06、23.88であったが、2020年以後は0.5以下と減少していた。

（文責：塩見）

図 感染性胃腸炎（ロタウイルス）年齢別報告数（大阪府）



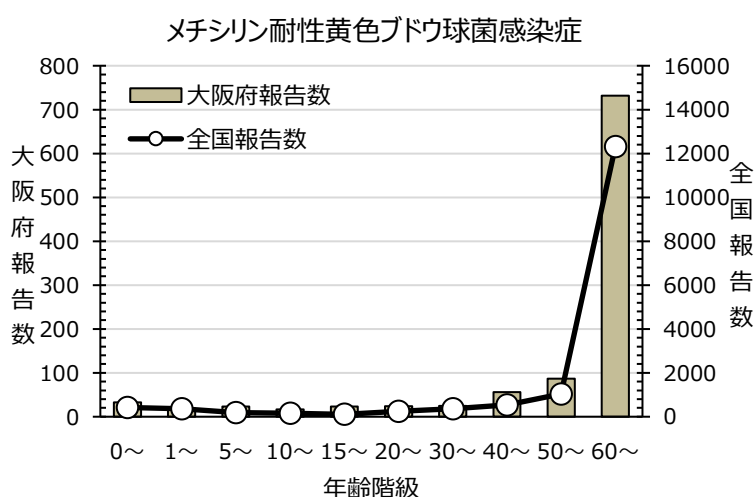
5) 基幹定点報告（月報）対象疾患

基幹定点報告(月報)対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の3疾患である。基幹定点報告(月報)対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は第52週時点で18であった。これら薬剤耐性菌は、抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬開発は減少にあり、国際社会でも大きな課題となっている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

大阪府全11ブロックから前年比20.8%増の1,039例の報告があり、定点あたり報告数は57.22であった。年齢別構成は0歳児33例、1～4歳児19例、5～9歳児23例、10～14歳17例、15～19歳23例、20～29歳24例、30～39歳25例、40～49歳56例、50～59歳87例、60歳以上732例であった。60歳以上が70.4%を占め、前年同様の分布であった。

全国情報(NESID年報2025年3月12日現在)では前年比1.4%増の15,744例の報告があり、定点あたりの報告数は32.80と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が12,319例と78.2%を占めた。大阪府内の報告数は全国の6.6%であった。



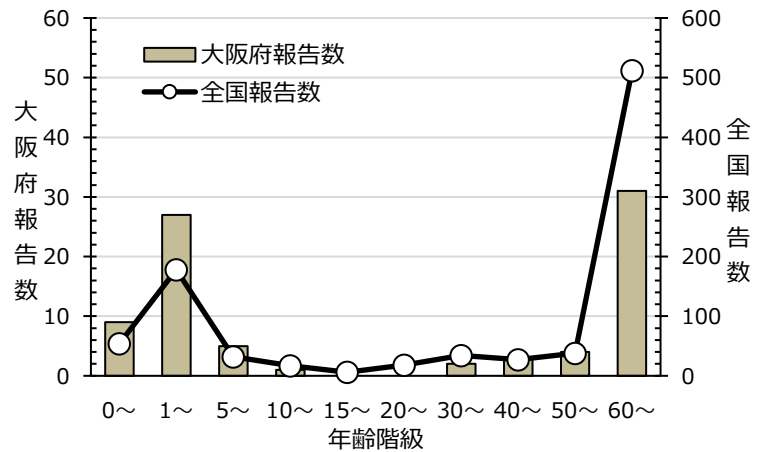
●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

⑤南河内36例、⑥堺市14例、①豊能13例、⑦泉州13例、③北河内6例の5ブロックから、前年比13.7%減の82例の報告があり、定点あたり報告数は4.56であった。0歳児9例、1～4歳児27例、5～9歳児5例、10～14歳1例、15～19歳0例、20～29歳0例、30～39歳2例、40～49歳3例、50～59歳4例、60歳以上31例であった。前年同様に0～4歳児と60

歳以上の年齢群での報告数が多く、それぞれ 43.9%、37.8%であった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 9.4%減の 916 例、定点当たり報告数は 1.91 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると大阪府と同様に 0～4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 25.3%、55.9%であった。大阪府内の報告数は全国の 9.0%であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

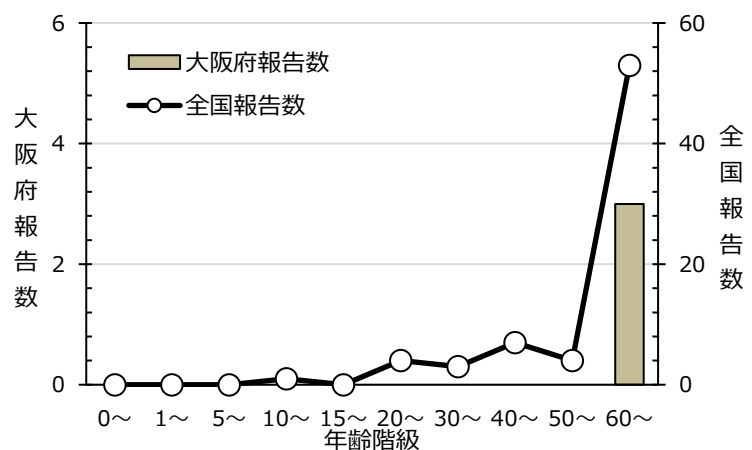


●薬剤耐性緑膿菌感染症

③北河内 2 例、⑦泉州 1 例の 2 ブロックから、前年から 2 例減の 3 例の報告があり、定点あたり報告数は 1.67 であった。年齢別構成は、60 歳以上 3 例であった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 25.8%減の 72 例の報告があり、定点あたり報告数は 0.15 と大阪府と同様であった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 53 例と 73.6%を占めた。大阪府内の報告数は全国の 4.2%であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症



（文責：平井）

2025年6月4日 大阪府医師会より、府医ニュースとして掲載した。

(第3110号)(昭和25年9月7日第三種郵便物認可) 大阪府医ニュース 2025年(令和7年)6月4日(毎週水曜日発行、但し第2週を除く)(8)

2024(令和6)年 感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市・寝屋川市・吹田市の密接な連携の下に実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所、堺市衛生研究所の病原体検出情報とをあわせて解析・評価し、還元している。2024年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

はじめに

2024年第52週時点の大阪府の小児科定点は196、インフルエンザ定点は305、眼科定点は52、基幹病院定点は18であり、前年とほぼ同様である。小児科・眼科定点疾患の1年間の患者報告数の総計は129,759人で前年より16.0%増加した。インフルエンザを除く疾患別では感染性胃腸炎が1位であり、次いで手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順である。第6位以下は、ヘルパンギーナ、突発性発しん、水痘、流行性角結膜炎、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑、急性出血性結膜炎であった。上位5疾患はそれぞれ全体の34.8%、25.9%、20.2%、8.4%、3.4%で5疾患の合計が全体の92.7%を占めた。

感染性胃腸炎

第1位の感染性胃腸炎の患者報告数は45,102人で、前年に比し0.3%増加し、定点あたり報告数は4.41であった。年齢別では1歳で5,893人(13.1%)と最も多く、2歳が4,821人(10.7%)、3歳が4,249人(9.4%)、4歳が3,961人(8.8%)の順であり、1～4歳までで全体の42.0%を占めた。季節別では春期(3月～5月)に29.1%、夏期(6月～8月)に20.0%、秋期(9月～11月)に17.7%、冬期(12月～2月)に22.3%と春期と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第5週(8.31)にピークがあった。検出されたウイルスは、ノロウイルスが50株、サポウイルスが7株、ロタウイルスが7株、アストロウイルスが3株、ライノウイルスが1株であった(図1)。基幹定点医療機関からの届出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は49人であった。

手足口病

第2位の手足口病は33,632人で、前年に比し10倍になり、定点あたり3.29であった。年齢別では1歳が9,297人(27.6%)で最も多く、2歳が

6,015人(17.9%)、3歳が4,450人(13.2%)、4歳が3,811人(11.3%)、5歳が2,836人(8.4%)、6～12カ月未満が2,626人(7.8%)と続き、6カ月～5歳までで、全体の86.3%を占めた。季節別では春期に12.8%、夏期に50.9%、秋期に32.2%、冬期に4.1%であり、夏期に多い。週別定点あたり報告数では第28週(9.93)、第41週(8.45)にピークがあった。検出されたウイルスは、コクサッキーA6が30株、コクサッキーA16が12株、コクサッキーA10が2株、ライノウイルスが7株、エンテロウイルス71が6株、ヒトメタニューモウイルスが2株、その他が3株であった(図2)。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第3位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は26,204人で、前年に比し23.3%増加し、定点あたり2.56であった。年齢別では5歳が3,217人(12.3%)で最も多く、4歳が3,082人(11.8%)、6歳が3,040人(11.6%)、7歳が2,576人(9.8%)と続き、4～7歳までで全体の45.5%を占めた。季節別では春期に32.4%、夏期に24.8%、秋期に15.7%、冬期に27.1%であり、春期に多かった。週別定点あたり報告数では第6週(4.30)と第20週(4.59)にピークがあった。

RSウイルス感染症

第4位のRSウイルス感染症は10,872人で、前年に比し4.0%増加し、定点あたり報告数は1.06であった。年齢別では1歳が3,525人(32.4%)で最も多く、6～12カ月未満が2,001人(18.4%)、2歳が1,971人(18.1%)、0～6カ月未満が1,415人(13.0%)、3歳が943人(8.7%)、4歳が426人(3.9%)の順であった。0～2歳までで全体の82.0%を占め、3～4歳が12.6%であった。新型コロナウイルス感染症流行前の2019年までは0～2歳で毎年85%以上を占めており、2020年にRSウイルスの流行がなかった影響が2021年～2023年に引き続き、罹患年齢に反映されている。季節別では春期に54.7%、夏期に17.7%、秋期に14.8%、冬期に12.9%であり、春期に多かった。週別定点あたり報告数では、第16週(4.41)にピークがあった。

咽頭結膜熱

第5位の咽頭結膜熱の患者報告数は4,428人で、前年に比し72.5%減少し、定点あたり報告数は0.43であった。年齢別では1歳で1,235人(27.9%)と最も多く、2歳が692人(15.6%)、3歳が

507人(11.4%)、4歳が423人(9.6%)、5歳が379人(8.6%)の順であり、1～5歳までで全体の73.1%を占めた。春期に26.7%、夏期に29.8%、秋期に14.5%、冬期に29.2%と夏期と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第2週(0.89)、第24週(0.91)に小さなピークがあった。検出されたウイルスは、アデノウイルス2型が5株、アデノウイルス3型が3株、アデノウイルス1型が1株、アデノウイルス54型が1株、ヒトメタニューモウイルスが1株であった。

インフルエンザ

インフルエンザの患者報告数は111,620人で前年に比し13.1%減少し、定点あたり7.02であった。年齢別では10～14歳が25,252人(22.6%)と最も多く、20歳以上が25,049人(22.4%)、8歳が7,462人(6.7%)、7歳が7,138人(6.4%)と続いた。週別定点あたり報告数では、2023年第33週(1.10)から流行期に入り、第6週(29.79)でピークとなり、第17週(0.74)で収束した。その後第46週(1.97)から流行期に入り、第51週(45.86)から急激に増加し、第52週(67.87)にピークとなった。インフルエンザウイルスの検出はA/H1pdmが165株、A/H3が33株、B(Victoria)が122株であった。

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症の患者報告数は68,578人で、定点あたり報告数は4.31であった。年齢別では20歳以上が45,672人(66.5%)と最も多く、10～14歳が5,798人(8.5%)、15～19歳が3,455人(5.0%)、1歳が2,387人(3.5%)の順であり、成人の占める割合が高かった。春期に16.9%、夏期に41.3%、秋期に9.9%、冬期に31.8%と夏期と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第5週(9.36)、第30週(14.68)にピークがあった。

おわりに

1982(昭和57)年に感染症発生動向調査事業を開始して42年が経過しました。この間、関係各位のご理解・ご支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。2025年もご理解・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

報告 東野 博彦(河内医師会)

図1：感染性腸炎ウイルス分離状況

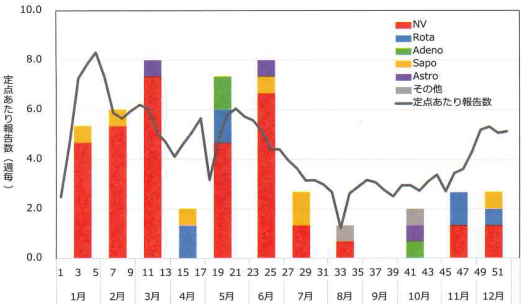
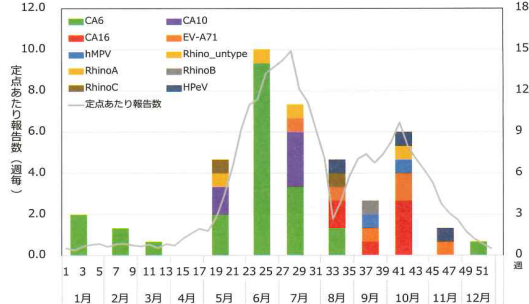


図2：手足口病ウイルス分離状況



II 五類定点把握感染症（性感染症を除く）